

小・中・都立学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

健 康 教 育
---------

東京都教職員研修センター

平成 15 年度 教育研究員 健康教育部会 名簿

〔 主 題 設 定 ・ 調 査 分 科 会 〕

練馬区立中村小学校	(世話人)	石井 松男	【全 体;総世話人】
江戸川区立南葛西第二小学校		田村 志伸	
江戸川区立下鎌田小学校		矢吹 理恵	
東大和市立第十小学校		石井 春江	
墨田区立竪川中学校		平林 圭子	
中野区立第八中学校		田久保 絵美	【中 学 校;副世話人】
都立雪谷高等学校(定)	(副世話人)	阿久津 和代	
都立久留米養護学校		久保田 聡	

〔 指 導 計 画 ・ 評 価 分 科 会 〕

港区立筭小学校		遠藤 三枝	
江東区立明治小学校	(副世話人)	梅津 ちひろ	
大田区立清水窪小学校		安岡 京	【小 学 校;副世話人】
北区立西浮間小学校		井ノ口 多恵美	
日野市立日野第二小学校		丸石 美粧	
昭島市立清泉中学校		奥山 玉美	
調布市立第四中学校		寺沢 聡子	
多摩市立多摩中学校	(副世話人)	渡邊 靖子	
都立日野高等学校		山口 紀子	
都立中野工業高等学校(定)		安納 美加子	【高等学校;副世話人】
都立文京盲学校	(世話人)	瀧島 章子	【盲・ろう・養;世 話 人】
都立北養護学校		関根 美香	

〔 授 業 分 科 会 〕

世田谷区立尾山台小学校		畠 中 久美子	
杉並区立高井戸東小学校	(副世話人)	柏 木 美佳子	
三鷹市立北野小学校		原 洋子	
小平市立上宿小学校		石 山 綾	
多摩市立北諏訪小学校	(世話人)	清 水 淳	
羽村市立羽村西小学校		新井 智子	
大島町立岡田小学校		宮崎 忍	【小 学 校;副世話人】
港区立三田中学校	(副世話人)	大槻 典子	
江東区立深川第三中学校		大塚 幹太	【中 学 校;世 話 人】
品川区立荏原第五中学校		持田 朋子	
北区立岩淵中学校		森山 みちる	
都立忠生高等学校		坂本 淳子	【高等学校;世 話 人】
都立南野高等学校		寺嶋 由美	
都立江東養護学校		木曾 幹彦	【盲・ろう・養;副世話人】
都立石神井養護学校		石 川 善江	【盲・ろう・養;副世話人】

(担当) 東京都教職員研修センター  
同

指導主事 牛島 三重子  
校長長期研修生 古家 眞

## 目 次

I	主題設定の理由及び研究のねらい	2
II	研究概要	
1	研究仮説の設定	3
2	研究の方法	3
3	研究の構想図	4
III	研究内容	
1	研究の視点	5
2	性教育の位置付けと全体計画及び評価について	6
(1)	健康教育における性教育の位置付け	6
(2)	性教育の年間指導計画例	8
(3)	性教育の評価について	10
(4)	性被害・性情報の指導における評価の観点	14
3	調査研究	15
4	実証授業	19
(1)	小学校(中学年)	19
(2)	中学校	25
(3)	高等学校	29
(4)	養護学校(知的障害)	33
IV	研究のまとめと今後の課題	36

## 研究主題 生きる力をはぐくむ性教育の展開と評価の工夫

### 主題設定の理由及び研究のねらい

#### 1 主題設定の理由

児童・生徒を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。携帯電話やインターネット等の普及により、情報量が増え、それに伴い性情報も氾濫している。また、児童・生徒の意識や価値観の変化は、性非行や性行動の早期化・低年齢化を招き、性に関する問題も複雑で深刻なものになっている。さらに、地域や家庭の教育力や規範意識の低下、コミュニケーション不足等により、自他を大切にしようとする心情や態度も十分に養われていない。

これらの課題に対応するためには、児童・生徒が豊かな人間性を身に付け、性に関する基礎的、基本的内容を理解した上で、課題に気付き、自ら学び、判断、行動し、課題を解決する能力、いわゆる「生きる力」を身に付ける必要がある。

この「生きる力」をはぐくむことは、現行の学習指導要領のねらうところであり、教育課程に位置付けられる性教育の目標もまた、児童・生徒の性に関する「生きる力」をはぐくむことと大きくかかわっている。また、性に関する様々な課題を児童・生徒自身が解決するための意志決定能力・行動選択能力は、学習指導要領の「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」を育成することに通じている。「確かな学力」は、知識や技能に加え、課題発見能力・思考力・判断力・表現力・課題解決能力等まで含むものとされているからである。

そこで、児童・生徒が性教育において「生きる力」をはぐくむためには、児童・生徒一人一人の学びを深める指導形態の工夫、他人とかがわる力を高めるコミュニケーション能力及び情報選択能力を養う指導方法の工夫が必要であると考えます。

また、指導と評価の一体化という観点から、性教育においても評価を工夫することが重要である。性教育の目標に準拠した評価規準を作成し、性教育の指導のねらいを確実に定着させ、児童・生徒自身が自己評価を通して自己理解を深め、次の学習への意欲付けになるようにしていかなければならない。

以上の点を踏まえ、本年度、健康教育部会では、性における「生きる力」をはぐくむために、指導と評価の工夫について研究を進める必要があると考え、研究主題を上記のように設定した。

#### 2 研究のねらい

- (1) 性教育における発達段階に応じた指導内容を明らかにする。
- (2) 性に関する意志決定能力・行動選択能力をはぐくむために、指導方法・指導形態・評価を工夫する。

## 研究概要

### 1 研究仮説の設定

研究主題の「生きる力をはぐくむ性教育の展開」について健康教育部会では、次のようにとらえた。

- ・児童・生徒の性についての知識の定着や考え方には個人差があるため、一人一人の状況に応じたきめの細かい指導が求められる。
- ・児童・生徒が性についての課題を解決するための意志決定能力・行動選択能力を身に付け実践につなげられるようにする。
- ・友達とのかかわり合いから、コミュニケーション能力が培われるようにする。
- ・個々の性に関する課題に、個別に対応する必要がある。
- ・研究主題の「生きる力をはぐくむ性教育の展開と評価の工夫」については、性教育の指導の改善を図り、児童・生徒が、性に関する正しい知識を身に付け、評価を基に自己理解を深め、次の学習への動機付けにつなげるようにする必要がある。

そこで、健康教育部会では、「生きる力」を「豊かな心情や態度を身に付け、望ましい人間関係を築き、正しい知識の裏付けの基に、主体的に判断し、行動し、課題を解決する能力」ととらえ、研究仮説を次のように設定した。

#### 研究仮説

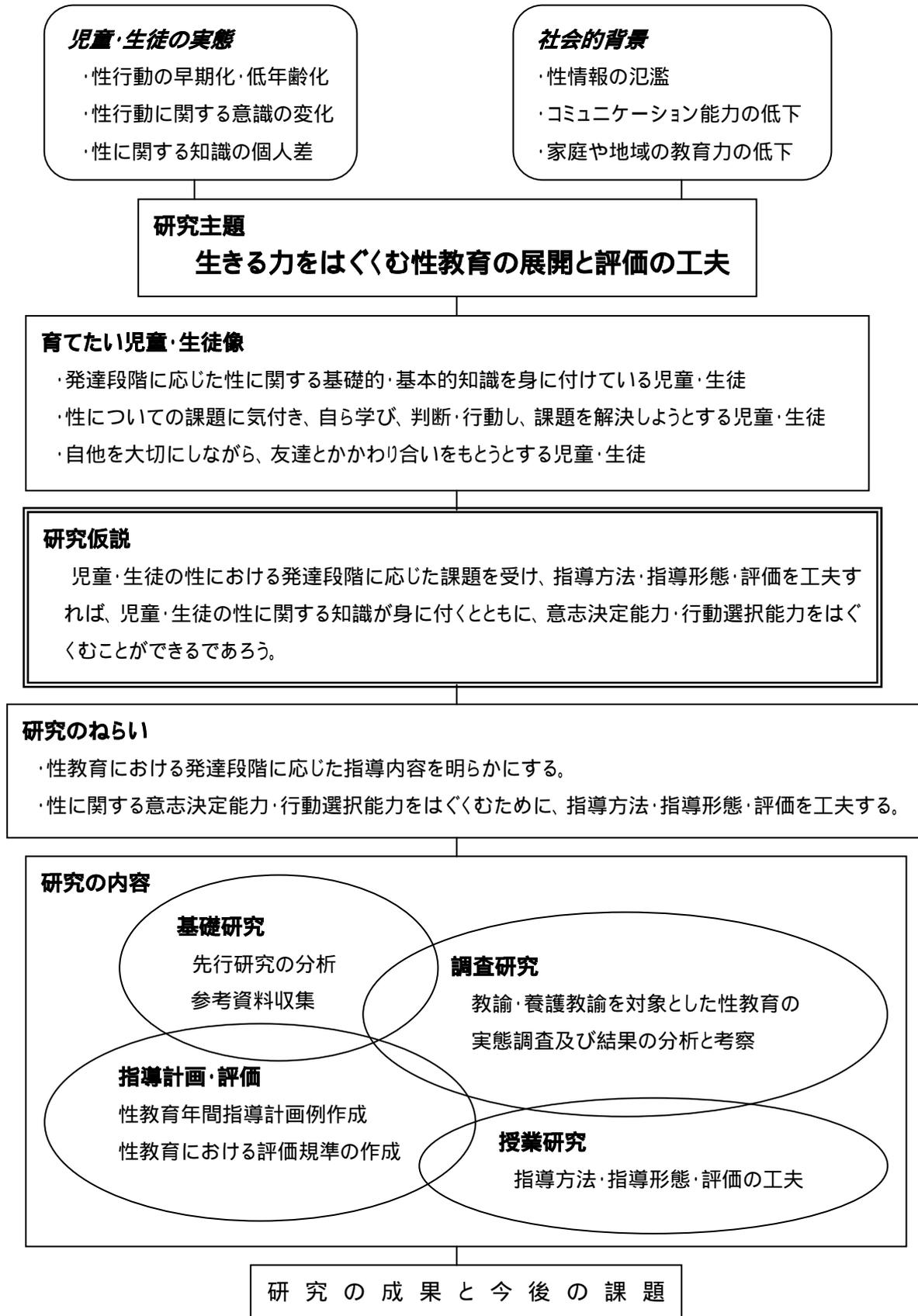
児童・生徒の性における発達段階に応じた課題を受け、指導方法・指導形態・評価を工夫すれば、児童・生徒の性に関する知識が身に付くとともに、意志決定能力・行動選択能力をはぐくむことができるであろう。

### 2 研究の方法

この仮説を実証するには、児童・生徒の発達段階に応じて、全ての校種で連携しながら、適切な指導を進めていくことが大切である。このことを踏まえ、今年度は、これまでの校種別（小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校）の分科会のほかに、校種を混合した次の3つの分科会に分け、この分科会を中心に研究を進めた。

第1分科会 主題設定・調査分科会	研究主題・研究仮説の設定 研究構想図の作成 性教育に関する調査（教諭・養護教諭対象）の実施・分析・考察
第2分科会 指導計画・評価分科会	健康教育における性教育の位置付けについて検討 指導計画の検討・作成 評価規準の作成
第3分科会 授業分科会	性教育年間指導計画例の作成 実証授業の計画立案・指導案作成 実証授業の実践

### 3 研究の構想図



## 研究内容

### 1 研究の視点

性教育を展開するにあたり、指導方法・指導形態・評価などにおいて、次のような工夫をすることによって、児童・生徒の性についての「生きる力」をはぐくむことができるのではないかと考えた。

#### (1) 指導方法の工夫

参加型・体験型の指導方法を取り入れることで、児童・生徒が正しい知識に裏付けられた意志決定や行動選択する能力を養い、実践力につなげられるようになる。また、児童・生徒同士のかかわり合いから、コミュニケーション能力や情報選択能力が養われ、豊かな心情や望ましい人間関係を築く力をはぐくむことができる。

#### (2) 指導形態の工夫

チームティーチングや少人数指導を取り入れるなど指導形態を工夫することで、指導の充実が図られ、個に応じたきめの細かい指導を行うことができる。その結果、児童・生徒一人一人が発達段階に即した性についての知識を身に付けられるようになる。

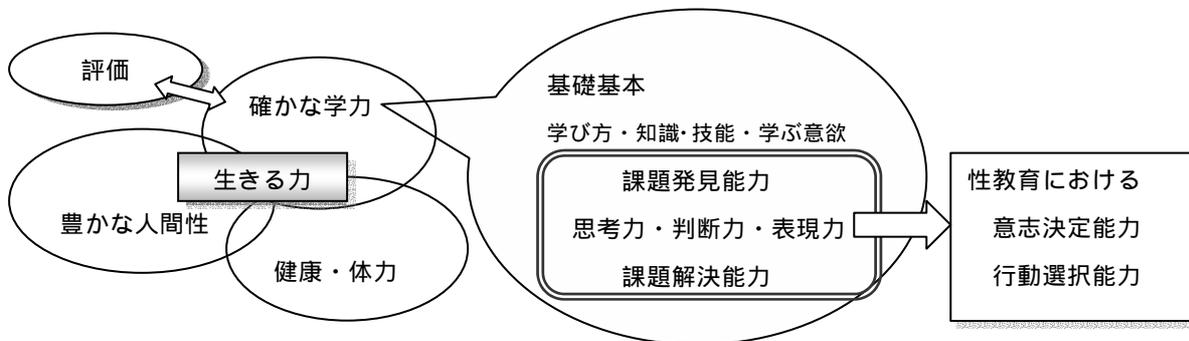
#### (3) 性教育における評価

性教育における評価規準を作成し、評価を行うことで、指導者が性教育の指導の改善を図ることができる。また、教師の評価や児童・生徒の自己評価を生かし、指導と評価を一体としてとらえ、教師の授業改善とともに児童・生徒が、自ら学習活動を振り返り、成果を自覚し、正しい自己理解や次の学習への動機付けとすることができる。

#### (4) 性教育の年間指導計画例の作成

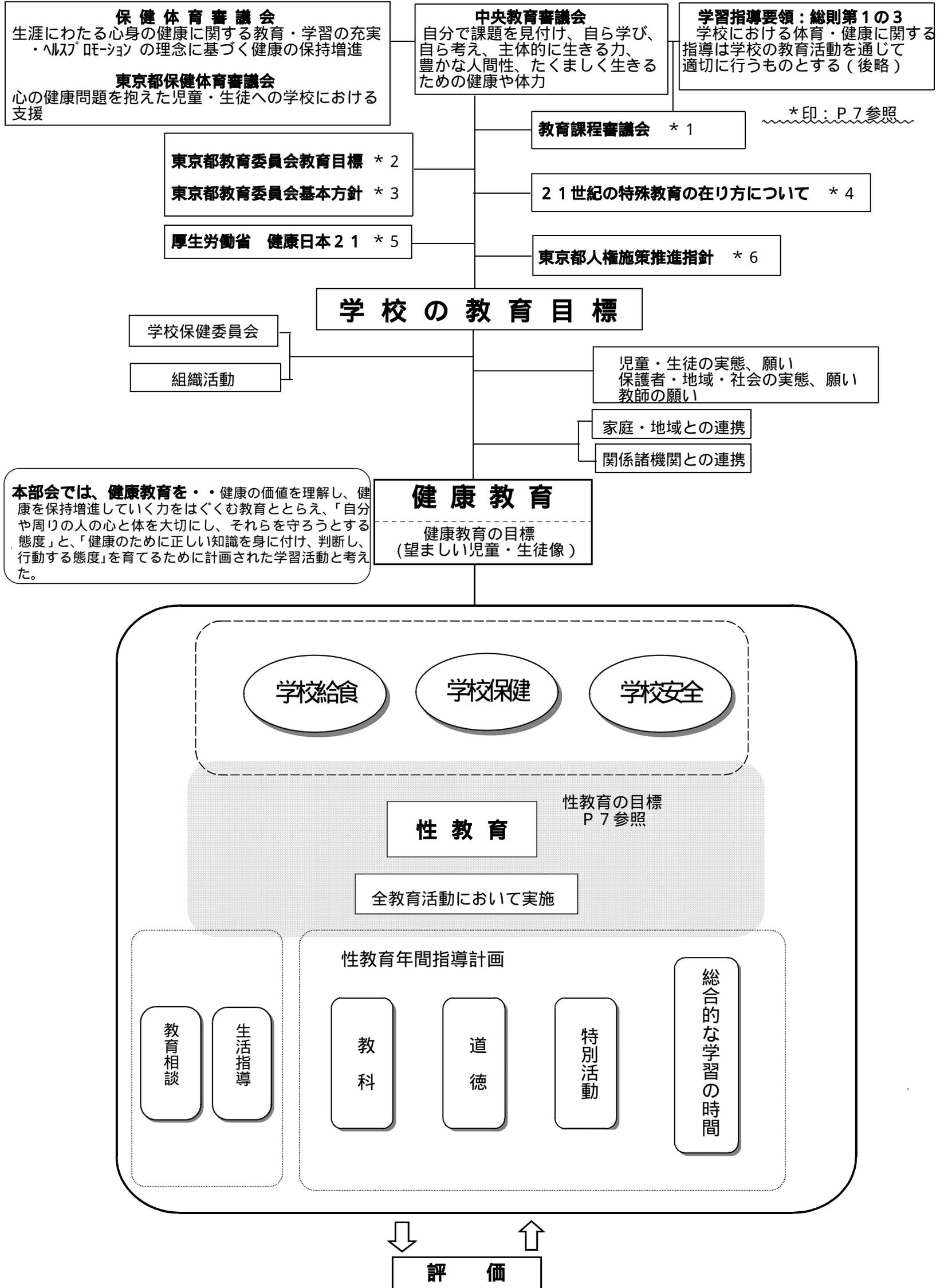
各校種の性教育の年間指導計画例を作成し、ねらいや時期を明らかにすることで、小学校・中学校・高等学校（盲・ろう・養護学校は小学校・中学校・高等学校の指導に準ずる）の系統的な指導を実施することができる。

- 性教育における「生きる力」と「意志決定能力・行動選択能力」との関連 -



## 2 性教育の位置付けと全体計画及び評価について

### (1) 健康教育における性教育の位置付け



## 『健康教育における性教育の位置付け』について

性教育は、人格の完成や豊かな人間形成等を目指す「人間教育」の一環である。そのため、学校の教育活動全体を通じて行われる必要があり、学校保健・学校給食・学校安全を中心とした健康教育の中に位置付けられる。その指導は、各種関連法令を踏まえて行われなくてはならない。性教育は、学習指導要領を基に、それに沿った教育課程内で、適切に、かつ計画的に実施されることが大切である。また、相談活動や生活指導の場面でも、個別あるいは集団に対して適宜実施されることが望ましい。性教育を実施するにあたっては、保護者の理解と協力が不可欠であり、連携を図ることが重要となる。さらに、地域や関係諸機関（医療機関、相談機関、行政機関等）との連携を図ることで、より効果的な性教育を行うことができる。性教育を学校の教育活動全体で取り組むためには、学習指導要領に基づき、児童・生徒の実態や、発達段階に応じた年間指導計画を作成することが必要である。また、性教育が効果的に実施されているかどうか知るために、評価は必要不可欠である。児童・生徒の学習活動への評価と、教師の教育活動への評価を行い、指導と評価を一体化させることが、より効果的な性教育の実施につながるという。

### 性教育の目標

文部科学省発行「学校における性教育の考え方、進め方」参照

- (1) 小学校の性教育の目標  
生命の誕生及び心身の発育・発達における男女差や個人差に関する基礎的事項を理解するとともに、自己の性を受容し、自分を大切にしようとする心情や態度を育てる。  
男女には体の特徴や発達段階などに違いがあるが、互いに相手の人格を尊重し合うことが大切であることを知り、相手を思いやる心情や態度を育てる。  
家庭における役割は、男女の別なく分担し、互いに助け合うことが大切であることを知り、家庭や社会の一員として、適切な判断や意志決定ができる能力や態度を培い、実践力の基礎を育てる。
- (2) 中学校の性教育の目標  
心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について科学的に理解するとともに、発達途上にある自己の性を受容し、自他を大切にしようとする心情や態度を育てる。  
男女の心身の特徴を基に男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を育てる。また、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく、行動選択ができる能力や態度を育てる。  
男女の生き方は多様であることを理解し、家庭や社会における期待される役割や自己の将来の生き方について考えるとともに、社会における性的な事象を見つめて、家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定、行動選択ができる態度や能力を培い、実践力を育てる。
- (3) 高等学校の性教育の目標  
心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について理解を深めるとともに、それらを科学的・総合的に理解し、自他の性に対する意識を深め、人間としてより適切な行動を選択しようとする態度を育てる。  
男女の心身の特徴と人間としての平等性について認識を深め、男女が互いに人格を尊重する心情や態度を育てる。また、将来を見通して、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択ができる能力や態度を育てる。  
社会における自己の役割と責任について自覚を促すとともに、将来の生き方について自分の考えを確立する。  
また、性の文化や社会的な意味を理解するとともに、男女平等、人権尊重の精神を基盤とする性の望ましい価値観を確立し、適切な意志決定や行動選択ができる能力や態度を培い実践力を育てる。

#### \* 1 教育課程審議会

生涯を通じて自己の健康を管理し、改善していく資質や能力の基礎を培う。小学校中学年からの保健指導：身体発育発達や性に関する指導は児童生徒の発達段階をふまえて重点化する。  
心の健康については、自他の心身の発育・発達の違いに気付き、肯定的に受けとめること、不安・悩みへの対応及び人とのかかわり方に重点をおく観点に立って、内容の改善を図る。

#### \* 2 東京都教育委員会教育目標

互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間社会の一員として、社会に貢献しようとする力  
自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

#### \* 3 東京都教育委員会基本方針

- 1 「人格尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成
- 2 「豊かな個性」と「創造力」の伸長
- 3 「生涯学習」と「文化・スポーツ」の振興
- 4 「都民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進

#### \* 4 21世紀の特殊教育の在り方について

IT化・ICTの進展に向け、障害のある児童生徒等の自立と社会参加を社会全体として、生涯にわたって支援する。  
教育、福祉、医療、労働等が一体となって乳幼児期から学校卒業まで障害のある子ども及びその保護者等に対する相談及び支援を行う体制を整備する。  
障害の重度・重複化や社会の変化に対応した指導の充実・個別指導計画等。

#### \* 5 厚生労働省 健康日本21

- ・ 思春期の健康と性の問題

#### \* 6 東京都人権施策推進指針

人間の存在や尊厳がおびやかされることなく、自らを律する自立した個人が、権利行使に伴う責任を自覚し、共存と共感で相互に支え合い、都民が世界に誇れる都市をつくる。

## (2) 性教育の年間指導計画例

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年
発達の特徴	<p>← 自分の体や性器への関心、自分と異なる性への興味関心が高まる →</p> <p>← 自分や赤ちゃんの誕生に疑問を持つ → ← 自己の認識の確立という欲求が表れる → ← 生命誕生や生殖のしくみについて関心や疑問をもつ →</p> <p>← 保護者や家族の様子から性役割意識が育つ → ← 体格や体力の男女の違いや男女を意識し始める → ← 性差や男女の性役割を意識し始める →</p> <p>← 男女の別なく仲良く遊ぶ → ← 異性に対する関心が高まり同性同士のグループ行動が見られる →</p> <p>← 有害な性情報に触れる機会が増大する →</p>					
性教育の目標	<p>男女の体の違いに気付く。 自分を大切にしようとする気持ちを育てる。 男女仲良くしようとする態度を育てる。 家族の一員として協力しようとする態度を育てる。 性被害を防ぐ方法を身に付ける。</p>		<p>男女の体の違い、発達の特徴を知る。 自尊感情や態度を育てる。 他者を理解し、よりよい人間関係を形成するための態度を育てる。 家庭における自分の役割を自覚し、行動する。 性情報・性被害について正しく認識し、適切に行動する。</p>		<p>生命の連続性や人の誕生について理解する。 自他の生命を尊重する態度を育てる。 よりよい男女の友達関係を築こうとする態度を育てる。 家庭や社会における男女の役割について考え、協力することの大切さを知る。 性情報、性被害、エイズなどに関する認識を深める。</p>	
4月	道徳「生活「友だちとなかよく」 2 - <友情>	道徳「みんな仲良く」 2 - <友情>	道徳「みんなで協力」 2 - <友情>		道徳「ほんとうの友情」 2 - <友情>	道徳「本当の友情とは」 2 - <友情>
5月	特別活動「からだの清潔、	特別活動「誘いにのらない」		特別活動「すばらしい友だち」 道徳「心遣い」 2 - <親切>	家庭「家族とくらすわたしの生活」 道徳「家族の中の自分」 4 - <家族愛>	特別活動「男女が助け合おう」
6月	生活・特別活動「はくのからだ・わたしのからだ」	道徳「命って不思議だな」 3 - <生命尊重>	道徳「妹のたんじょう」 3 - <生命尊重>	道徳「事故者を救え」 3 - <生命尊重> 体育(保健領域)「育ちゆく体と私」(初経・精通、異性への関心)	道徳「受けつぐ命」 3 - <生命尊重>	
7月	特別活動「誘いにのらない」	特別活動「誘いにのらない」	特別活動「誘いにのらない」	特別活動「社会の中の性」	特別活動「社会の中の性」 理科「生命の誕生」	特別活動「社会の中の性」
9月	道徳「いのちのあたたかさ」 3 - <生命尊重>		体育(保健領域)「毎日の生活と健康」(体の清潔を保つ)	道徳「人命第一」 3 - <生命尊重>	理科「植物の実や種子のでき方」	
10月	道徳「こまっているなかまに」 2 - <友情>	道徳「友だちっていいな」 2 - <友情>	特別活動「友達の良いところ探し」 道徳「さりげない親切」 2 - <親切>	道徳「親切の心」 2 - <親切> 国語「私の体について調べよう」	特別活動「友達を助けよう」 道徳「だれにでも親切に」 2 - <親切>	特別活動「男女が助け合おう」 道徳「思いやりの心」 2 - <親切>
11月		道徳「友達への思いやり」 2 - <親切>	道徳「男女仲良く」 2 - <友情>	特別活動「さまざまな人たち」	道徳「かけがえない命」 3 - <生命尊重>	道徳「家族とともに」 4 - <家族愛> 体育(保健領域)「病気の予防」(偏見や差別の払拭、エイズという病気)
12月	道徳「家族のこころ」 4 - <家族愛>	特別活動「生活「家庭の仕事」」 道徳「だいじなぞく」 4 - <家族愛>	特別活動「男の子・女の子の体の違い」	道徳「父母の愛」 4 - <家族愛>		特別活動「生命と人権」
1月		特別活動「おなかの中の私」 道徳「はくのいのち」 3 - <生命尊重>	特別活動「自分のよさ」 道徳「友だちの死」 3 - <生命尊重>	道徳「命の尊さ」 3 - <生命尊重>	体育(保健領域)「心の健康」(性の不安や悩みに対して適切な対処の仕方) 特別活動「男女のエチケット」 道徳「理解し合い助け合う心」 2 - <友情>	道徳「男女の友情と協力」 2 - <友情> 道徳「生きることのすばらしさ」 3 - <生命尊重> 道徳「生命のかがやき」 3 - <生命尊重>
2月	道徳「たんじょうのすばらしさ」 3 - <生命尊重>	生活「私の成長」 「自分の良さを発見」	特別活動「いのちの誕生」 道徳「かけがえない命」 3 - <生命尊重>	特別活動「人がいやがること」	道徳「生きることの尊さ」 3 - <生命尊重>	家庭「協力してくらすわたしやみんなの家庭生活」 道徳「家族の幸せを求めて」 4 - <家族愛>
3月	生活「できるようになったよ」	道徳「友だちのいいところさがし」 2 - <親切>	道徳「あたたかい家族」 4 - <家族愛>	道徳「お母さんの手伝い」 4 - <家族愛>		特別活動「自分の将来について考えよう」

体育・保健体育

実践授業で扱った部分

中1年	中2年	中3年	高等学校	盲・ろう・養護学校
<p>思春期における心身の大きな変化に対する不安や悩み・他者との比較や理想との格差に不安や悩みをもつ</p> <p>← 心理的離乳および心理的葛藤が見られる →</p> <p>← 性的成熟の自覚や自我が確立され、生理現象に関する不安や悩みをもつ →</p> <p>← 積極的な交際など多様な男女関係の模索が見られる →</p> <p>← 性的問題行動の出現の可能性や性衝動のコントロールへの悩みをもつ →</p>				<p>基本的には障害がない児童・生徒等と同じであるが、障害・疾病や発達段階によって、身体や性への悩み、病気そのものへの不安などをもっていることが多い。</p>
<p>人間の性の成熟について科学的に理解する。 自分を大切にしようとする心情や態度を育てる。 人格を尊重する心情や態度を育てる。 望ましい人間関係を築いていくために、意志決定に基づく行動選択ができる能力や態度を育てる。 家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定能力・行動選択能力や態度を育てる。</p>			<p>自他の性に対する認識を深める。 男女が互いに人格を尊重する心情や態度を育てる。 望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択の能力や態度を育てる。 社会における自己の役割と責任について自覚を促し、将来の生き方について、自分の考えを確立させる。 男女平等・人間尊重の精神を基盤とする性の望ましい価値観を確立させる。</p>	<p>基本的には障害がない児童・生徒等の目標と同じであるが、障害を克服し、社会的に自立していくことを目指して、その障害・疾病や状態に応じてそれぞれの目標を設定する。</p>
<p>体育(保健分野) 「体の発育・発達」 「性機能の成熟」 特別活動・進路 「自己理解と他者理解」</p>	<p>特別活動 「自己理解と他者理解」</p>	<p>特別活動 「自己理解と他者理解」</p>	<p>必修</p> <p>保健(原則入学年次及びその次の年次に各1単位、計2単位) 現代社会と健康 - 健康の保持増進と疾病の予防 - * 性感染症・エイズの予防 * 欲求と適応機制 * ストレスへの対処 生涯を通じる健康 - 生涯の各段階における健康 - (思春期と健康) * 性的な成熟と心理・行動の変化 * 異性を尊重する態度の必要性、性と人権 * 性欲と性行動(性行動の選択・意志決定、対象の選択) * 望まない妊娠の防止・避妊 * 性の不安や悩みへの対処 * 性犯罪や性的問題行動、性情報への対処 (結婚生活と健康) * 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題 * 家族計画の意義(男女平等参画の推進・結婚観) * 人工妊娠中絶の心身への影響 * 結婚生活の基盤(適切な意志決定や良好な人間関係) (* 男女それぞれの生殖に関わる機能)</p> <p>【家庭基礎・生活技術】 学校別・選択 人の一生と家族・福祉 (生涯発達と各ライフステージの特徴) * 生涯発達と各ライフステージの特徴(自立や男女の平等と相互の協力など青年期の課題) * 家庭の機能と家族(男女が協力して家庭を築くことの意義) * 生活設計(将来の結婚や家庭生活と職業生活のあり方、自分らしいライフスタイルの形成) (乳幼児の発達と保育・福祉) * 親の役割と保育(親や家族が果たす役割、子育てを通じた親自身の人間的成長、子育ての意義) 【家庭総合】 人の一生と家族・家庭 (人の一生と発達課題) * 青年期の課題(自立や男女の平等など青年期の課題、男女の平等、自立した男女がともに築く家庭) * 家族・家庭を支える労働(男女共同参画社会の実現、男女がともに果たす家庭生活の責任) (生活設計) * ライフスタイルと生活にかかわる価値観(各自の将来の生活構想に基づく生活設計立案、自分らしいライフスタイルの形成) 子どもの発達と保育・福祉 (子どもの発達) * 母体の健康管理と子どもの誕生(母体の健康管理の重要性、生命の尊さ) (親の役割と保育) * 親の役割と子どもの人間形成(親の役割) * 子どもを産み育てることの意義(子育てを通じた親自身の人間的成長、子育ての意義) 【理科基礎】 科学の課題とこれからの人間生活 * 生命と環境(遺伝子操作による生物の改変やクローン生物の作成、遺伝子治療などの生命の操作やヒトゲノム計画) 【理科総合B】 生命と地球の移り変わり * 生物の移り変わり(遺伝子と遺伝の規則性) 【生物・理数生物】 生命の連続性 * 生殖と発生(生殖細胞の形成と受精) * 遺伝(遺伝の法則、優性遺伝と劣性遺伝、遺伝子と染色体、性染色体と性の決定、伴性遺伝) 【公民・現代社会】 現代に生きる私たちの課題(生命の意味、生と死の問題等) 現代の社会と人間としての在り方生き方 * 現代の社会生活と青年(青年期の意義と自己形成の課題、社会の構成員としての男女平等) * 現代の民主政治と民主社会の倫理(生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、主体的に生きる人間の在り方生き方) 【公民・倫理】 青年期の課題と人間としての在り方生き方 * 青年期の課題と自己形成(青年期の意義と課題、豊かな自己形成、他者と共に生きる自己の生き方) * 人間としての自覚(人間の存在、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題) 現代と倫理 * 現代に生きる人間の倫理(人間の尊厳と生命への畏敬、自己実現と幸福) * 現代の諸課題と倫理(生命、家族・地域社会)</p>	<p>盲・ろう・養護学校では、12年間を見通した上で、児童・生徒の年齢や発達段階などの実態に応じて、指導する時期や指導内容・方法を創意工夫していくとともに、学校生活全体の中に性をはくむ視点を持って、繰り返し指導を行っている。</p> <p><b>おもな指導内容</b></p> <p>【性の自認】 ・ポディーイメージ ・リラクゼーション ・からだづくり ・体のしくみとその働き ・自分にかけてくる体の変化 ・月経、射精 ・生命誕生 ・清潔なからだ ・人の一生 ・自分史</p> <p>【男女の人間関係】 ・男女の体と心 ・エチケット ・好きになる気持ち ・人のかかわり方 ・妊娠、避妊</p> <p>【家庭や社会生活】 ・家族について ・社会の中の性 ・健康な生活(病気やけがの予防)</p>
<p>体育(保健分野) 「性とう向き合うか」 「人とのかわり」 道徳2 - 「男女の理解と協力」</p>	<p>道徳2 - 「男女の理解と協力」</p>	<p>道徳2 - 「男女の理解と協力」</p> <p>公民「平等権」(夫婦の平等な協力)</p>		
<p>体育(保健分野) 「自分らしさ」 特別活動「思春期の心と体」 特別活動「性に関する態度・行動の選択」</p>		<p>公民「平等権」(両性の本質的平等)</p> <p>道徳3 - 「命をいとおしむ」</p>		
	<p>道徳3 - 「新しい生命」</p>			
<p>特別活動「自分史づくり」 道徳3 - 「生きることの大切さ」</p>	<p>道徳3 - 「かけがえない命」</p>	<p>道徳2 - 「個性の尊重」</p> <p>道徳4 - 「平和の尊さ」</p>		
<p>特別活動「自分史づくり」 特別活動 「社会の中の性(性情報)」</p>	<p>特別活動 「社会の中の性(性情報)」</p>	<p>理科2分野 「生物の子孫の残し方」 特別活動 「社会の中の性(性情報)」</p>		
		<p>道徳3 - 「生きる力」</p>		
<p>道徳3 - 「共に生きる」</p>	<p>道徳4 - 「ともに支え合う」 学活「生命の尊重」</p>	<p>道徳2 - 「思いやりの心」</p>		
	<p>家庭科「保育」 道徳2 - 「愛と感謝」</p>	<p>特別活動 「異性を知り尊重する」 道徳4 - 「差別偏見」</p>		
	<p>家庭科「保育」 道徳1 - 「人間としての誇り」</p>	<p>体育(保健分野) 「性感染症の予防/エイズ」 道徳3 - 「生きる喜び」</p>		
	<p>歴史「日本の民主化」 (女性の選挙権の獲得) 特別活動「性に関する態度・行動の選択」</p>	<p>道徳2 - 「人間への慈しみ」 特別活動「性に関する態度・行動の選択」</p>		

### (3) 性教育の評価について

#### 評価の必要性と意義

性教育は「生きる力」をはぐくむことと関連が深く、全教育活動の中で行われている。性教育の評価は、性教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童・生徒がその目標に向けてどのように変容しているかを明らかにするものである。つまり、性教育を行うにあたり、新学習指導要領の趣旨に鑑み、児童・生徒一人一人が「生きる力」を身に付けているか、また、どのように「生きる力」が育ちつつあるかを様々な学習の場面において適切に評価することが大切である。

評価においては、児童・生徒一人一人のよさや可能性を見だし、それを伸ばすことが大切であり、性教育の目標に見合った評価規準の作成と、評価方法の工夫が必要である。

#### 評価のとらえ方・評価に対する意識の違い

性教育に関する教職員の意識調査の結果より、性教育の実施状況に関する質問において、何らかの形で性教育を実施していると回答した割合は、全体の64.4%であった。これに対して、児童・生徒が知識を身に付け、自ら考え判断し行動できると回答した割合は全体の20%であった。この結果から、指導方法や評価も含めて今まで行われてきた性教育を見直す必要があると考えられる。

また、性教育を行う際の評価実施率が36%であった。このことは、「評価＝評定」という考え方が強いこと、評定を必要としない授業では評価も必要ないのではという考え方があることなど、評価の必要性について個人により意識が大きく異なるための結果である。つまり、評価のとらえ方や考え方の違いが、評価の有効性や必要性を薄めているのではないかと考えることができる。一方、何らかの方法で評価を行うことにより知識や意志決定能力が身に付いていることが明らかになり、性教育を効果的に行うためには評価が有効であることが分かった。

#### 評価の在り方・工夫

以上のようなことから、一人一人に「生きる力」をはぐくむための評価を考えたとき、授業のねらいをできるだけ具体的により分かりやすい表現で設定することが大切である。授業のねらいは、評価につながるものであり、また発達段階や年齢における特性を考え作成された性教育の目標に即したものでなくてはならない。

そこで、性教育の目標を具体的に示すとともに、どの教科で何に重点を置くかを明確にすることによって評価の工夫を図ることとし、「発達段階に応じた性教育の目標及び評価規準」を校種別に作成した。同じ観点で作成することにより、発達段階における特性が浮き彫りになるとともに評価のとらえ方を一本化できた。

また、性教育の授業は主体的な意志決定能力や行動選択能力を育てることをねらいとしている。本研究では、教師による評価だけでなく、児童・生徒の自己評価により、意志決定能力・行動選択能力が培われると考え、授業に取り入れることとした。

性教育の 基本目標	目標	観点	評価規準	評価 場面
低学年	自己の性自認	関心意欲態度	男女の体の違いに関心をもち、自分や友達の体の違いを肯定的に受け止めようとしている。	生活 道徳 特活
		思考判断	どのようにしたら自分や周りの人を大切にできるか考えている。	
		知識理解	自分は父親・母親から生まれ、愛情と保護によって育てられたことを理解している。	
	人間関係 男女の	関心意欲態度	男女の別なく友達と仲良くしようとしている。	生活 道徳
		思考判断	一人一人を大切に、男女それぞれのよさを認め合おうと考えている。	
		知識理解	男女の体には違いがあるが、人間として共に大切な存在であることを理解している。	
	一員としての 家庭や社会の	関心意欲態度	家族の一員として、協力していこうとしている。性被害から自分を守ろうとしている。	生活 特活
		思考判断	家族の一員として協力することについて考えている。性被害から自分を守るうとする仕方について考えている。	
		知識理解	家族は互いに助け合って生活していることに気付いている。性被害が起きている現状を理解している。	
中学年	自己の性自認	関心意欲態度	男女の体の違いや発育・発達の特徴を知ろうとしている。	体育 道徳 特活
		思考判断	自分や友達のよさを見付け、お互いを尊重しようと考えている。	
		知識理解	体のつくりや働きを理解している。男女の体の違いや発育・発達について理解している。	
	人間関係 男女の	関心意欲態度	男女の別なく友達と仲良く協力しようとしている。	体育 道徳 特活
		思考判断	互いに相手を尊重するとともに、男女仲良く協力しようと考えている。	
		知識理解	男女の互いの違いやよさに気付いている。	
	一員としての 家庭や社会の	関心意欲態度	家庭における自分の役割を自覚して、行動しようとしている。性情報を正しく受け止め、適切に行動しようとしている。	道徳 特活
		思考判断	家庭における自分の役割について考えている。テレビやマンガからの性情報を適切に選択している。	
		知識理解	家庭の機能について理解している。性情報を正しく受け止め、男女の違いや個人によって違いがあることを認めようとしている。	
高学年	自己の性自認	関心意欲態度	自他の生命を尊重しようとしている。	理科 道徳 特活
		思考判断	心身の発達には男女差・個人差があり、生命の連続性について、自分のこととして考えている。	
		知識理解	心身の発育・発達には男女差や個人差があることを理解している。生命の連続性や人の誕生について理解している。	
	人間関係 男女の	関心意欲態度	男女の別なくよりよい友達関係を築こうとしている。	体育 道徳 特活
		思考判断	相手の立場や気持ちを尊重し、よりよい友達関係を築こうとする気持ちが育っている。	
		知識理解	異性に対する心は男女に違いがあることを理解している。	
	一員としての 家庭や社会の	関心意欲態度	男女の固定的な性役割にとらわれずに行動しようとしている。健康で安全な生活を営もうとしている。	家庭 道徳 特活
		思考判断	家庭や社会における男女の役割について考えている。性情報や性被害、エイズに関することなどについて正しく判断している。	
		知識理解	家庭や社会で男女が互いにできる仕事を分担し、協力して生活することの大切さを理解している。性情報や性被害、エイズに関することなどについて正しく理解している。	

性教育の基本目標	目標	観点	評価規準	評価場面
自己の性自認	心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について科学的に理解するとともに、発達途上にある自己の性を受容し、自他を大切にしようとする心情や態度を育てる。	関心意欲態度	心身の機能の発達と心の健康について興味・関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。	保体 道徳 特活 理科
		思考判断	心身の発育・発達や変化などについて科学的に理解している。	
		知識理解	自己の性にかかわる様々な変化を成長の過程として肯定的にとらえることができている。	
男女の人間関係	男女の心身の特質を基に男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を育てる。また、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択ができる能力や態度を育てる。	関心意欲態度	男女が互いに相手の人格を尊重しようとしている。	道徳 特活 保体
		思考判断	人間関係の多様さや、自分や相手のことをよく考え、気持ちを表すことができている。	
		知識理解	男女の心身の特質を理解している。望ましい人間関係を築くために必要な知識を身に付けている。	
家庭や社会の一員として	男女の生き方は多様であることを理解し、家庭や社会における期待される役割や、自己の将来の生き方について考えるとともに、社会における性的な事象を見つめて、家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定、行動選択ができる能力や態度を育てる。	関心意欲態度	男女の人間関係や役割など、広く社会に目を向け、社会の一員としての自己の生き方について意欲的に学習に取り組んでいる。	特活 技術・家庭 (家庭分野) 社会 保体
		思考判断	家庭や社会における期待される役割や自己の将来の生き方について考えられる。家庭や社会の一員として、適切な判断や意思決定・行動選択ができる能力や態度が身に付いている。	
		知識理解	男女の生き方は多様であることを理解している。家庭や社会の役割分担にある固定的な考えに気付くことができている。	

性教育の基本目標	目標	観点	評価規準	評価場面
自己の性自認	心身の発育・発達や変化など、人間の性の成熟について理解を深めるとともに、それらを科学的・総合的に理解し、自他の性に対する認識を深め、人間としてより適切な行動を選択しようとする態度を育てる。	関心意欲態度	自他の性に対する認識を深め、一人の人間として、より適切な行動を選択しようとしている。	保体 家庭 公民
		思考判断	自他の性に対する認識を深め、各自が望ましい男性観・女性観をもっている。	
		知識理解	自己の心身の発育・発達などの過程を知り、人間の性の成熟について科学的・総合的に理解している。	保体 理科
男女の人間関係	男女の心身の特質と人間としての平等性について認識を深め、男女が互いに人格を尊重する心情や態度を育てる。また、将来を見通して、望ましい人間関係を築いていくため、より適切な意志決定に基づく行動選択の能力や態度を育てる。	関心意欲態度	男女が互いの人格を尊重し、自立した人間関係を築こうとしている。 人間尊重や男女平等の精神に基づき固定的な性役割や性観念にとらわれることなく、好ましい人間関係を築こうとしている。	保体 家庭 公民
		思考判断	将来を見通して、望ましい人間関係を築くため、適切な行動選択ができる。 自分の意志を相手にはっきりと伝えられ、性行動に対する意志決定や行動選択ができる。	
		知識理解	男女の心身の特質を知り、男女平等について理解している。 男女の人間関係には多くの過程があり、その過程が大切であることを理解している。	
家庭や社会の一員として	社会における自己の役割と責任について自覚を促すとともに、将来の生き方について自分の考えを確立する。また、性の文化や社会的な意味を理解するとともに、男女平等、人間尊重の精神を基盤とする性の望ましい価値観を確立し、適切な意志決定や行動選択ができる能力や態度を育てる。	関心意欲態度	よりよい人間関係を築くため、男女平等、人間尊重の精神で望ましい価値観をもち、適切な意志決定や行動選択をしようとしている。 性情報を適切に見極め、性に関する様々な社会事象に主体的な判断ができる能力や態度を身に付けている。	保体 家庭 公民
		思考判断	社会における自己の役割と責任を自覚し、将来の生き方について自分の考えをもっている。 性と人権に関しては、社会生活を送る上での基礎・基本であるという認識をもっている。 自分なりの結婚観や家庭観をもつことができる。	
		知識理解	性の文化や社会的な意味を理解している。 家庭や社会において役割と責任について理解している。	

(4) 性被害・性情報の指導における評価の観点

現代は性情報が氾濫し、児童・生徒が性犯罪に巻き込まれる危険性も高くなってきている。児童・生徒自身が性にかかわる様々な危険を回避し、社会において安全な生活が送れるように、自分の身は自分で守り、危険に対処できる能力をはぐくむことが必要である。

本研究では、性と社会環境との関係から、児童・生徒の発達段階に応じた「意志決定能力・行動選択能力」を育成することが大切であると考え、「性被害・性情報」の指導を中心に進めることにした。

そして、より効果的な指導を展開するために、評価の観点を明確化する必要があると考え、発達段階に応じた性被害・性情報の指導における評価の観点を下記の通り設定した。

< 性被害・性情報の指導における評価の観点 >

関心・意欲・態度	小学校	健康で安全な生活を送るために、性情報の選択や性被害の防止について関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。
	中学校	健康で安全な生活を実践するために、性情報の正しい選択や、性被害の防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
	高等学校	健康で安全な生活を実践するために、性情報を正しく選択し、性被害を未然に防ぐことについて、主体的に考え意欲的に取り組もうとしている。
思考・判断	小学校	健康で安全な生活を送るため、性情報の正しい選択や性被害の防止について考え、判断している。
	中学校	性情報を客観的にとらえ、問題点に目を向け、性被害を未然に防ぐための意志決定や行動選択ができる。
	高等学校	様々な性情報を科学的、総合的にとらえることにより、性被害の防止に役立つ適切な意志決定や行動選択ができる。
知識・理解	小学校	性情報の正しい選択や性被害の防止について、健康で安全な生活を送るために役立つ基礎的な内容を理解している。
	中学校	性情報を適切に判断し、性被害を防止することについて、健康で安全な生活を実践するために役立つ基礎的な事項を理解している。
	高等学校	性情報から正しい知識を理解するとともに、性に関する課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

### 3 調査研究

(1)目的：児童・生徒の性に関する知識・意志決定能力の実態を調査する。

性教育の指導形態・評価の実態及び意識を調査する。

(2)方法：質問紙法による。

(3)対象：研究員所属校教諭・養護教諭

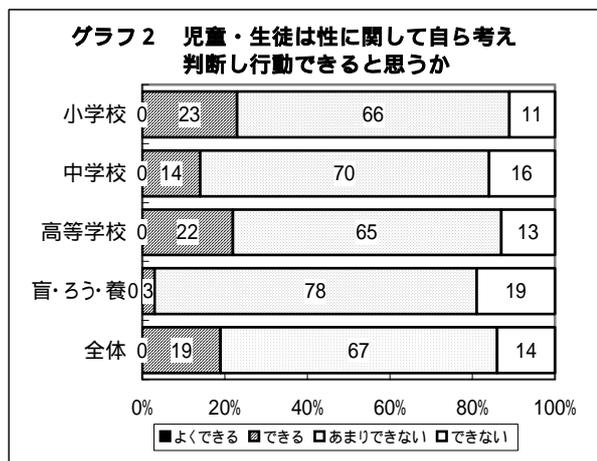
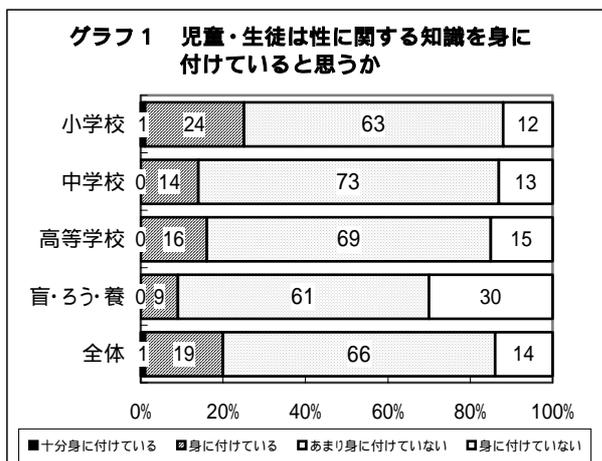
	小学校	中学校	高等学校	盲・ろう・養護学校	計
教諭	219	89	102	51	461
養護教諭	227	103	79	13	422
計	446	192	181	64	883

(4)実施時期：平成15年7月9日～18日

(5)調査仮説：性教育の指導方法・指導形態・評価を工夫することによって、児童・生徒に知識・意志決定能力が身に付くと指導者は考えている。

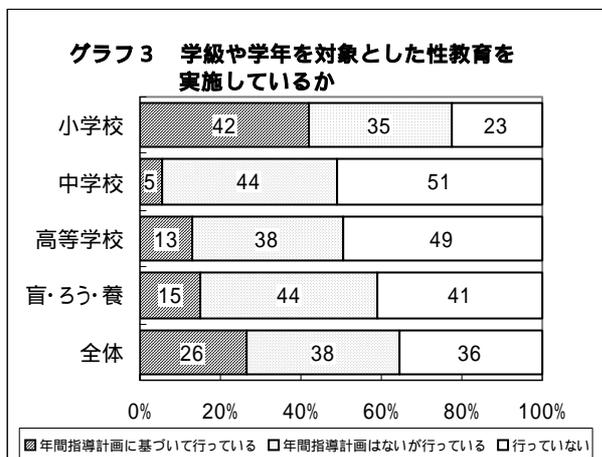
(6)調査の結果

児童・生徒の【知識・意志決定能力】に関する質問



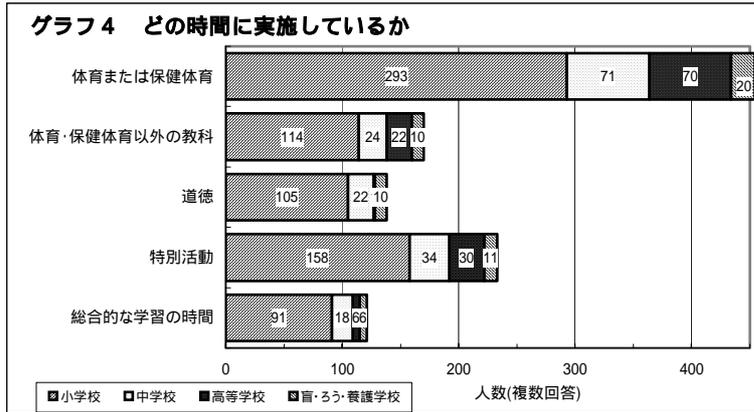
性に関する知識を「十分身に付けている」「身に付けている」と回答した割合は全体の20%で、中、高、盲・ろう・養護学校に比べ、小学校の割合がやや高かった。「性に関して自ら考え自ら判断し行動することができる」については、「よくできる」「できる」と回答した割合は全体で20%に満たなかった。

性教育の実施状況に関する質問



学校における性教育は、年間指導計画を立て、教育活動全体を通して実施する必要がある。性教育を実施している割合は全体で64%、最も高い小学校では77%、最も低い中学校では49%であった。「年間指導計画に基づいて行っている」と回答した割合は、全体では26%であった。実施率の最も高い小学校では42%、最も低い中学校では、5%であった。

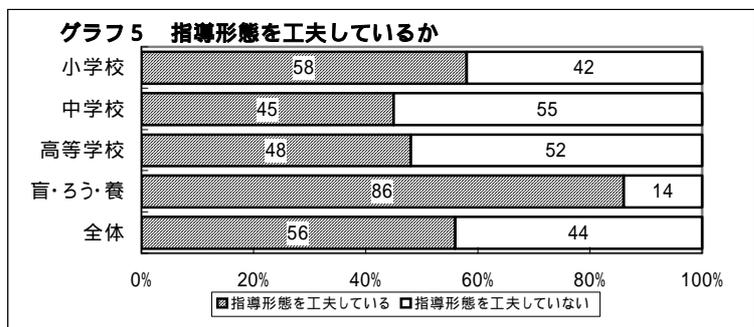
性教育を行っている教科等に関する質問



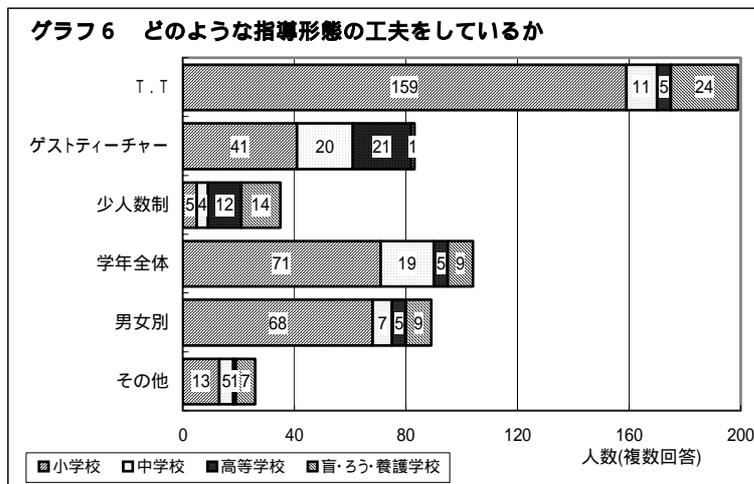
性教育を行っている教科等は、「体育または保健体育」と回答した人数が最も多かった。

次いで「特別活動」「体育・保健体育以外の教科」「道徳」「総合的な学習の時間」と続いている。

指導形態の工夫に関する質問

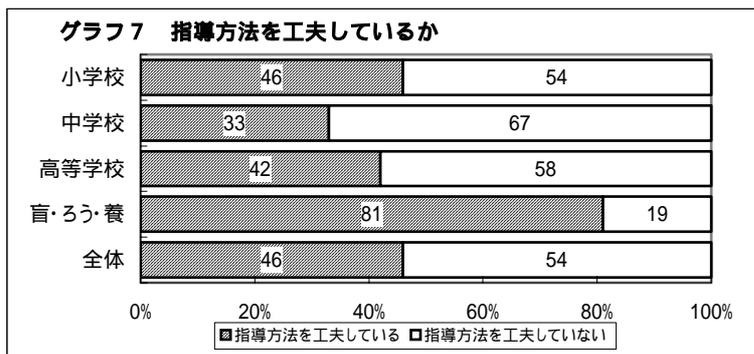


「指導形態を工夫している」と回答した割合は、全体で56%、小学校で58%、中学校で45%、高等学校で48%、盲・ろう・養護学校では87%であった。盲・ろう・養護学校での割合が特に高かった。

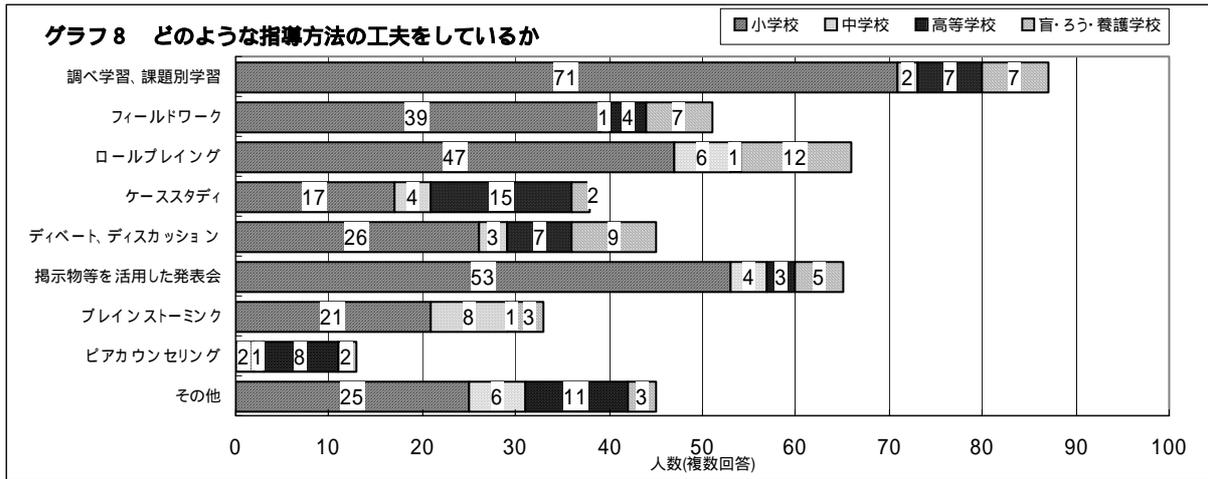


どのような指導形態の工夫がされているかという、全体では「T・T」が最も多く、次いで「学年全体」「男女別」と続く。中学校では「ゲストティーチャー」「学年全体」が多かった。高等学校では「ゲストティーチャー」「少人数制」が多かった。盲・ろう・養護学校では「T・T」「少人数制」が多く、校種による差がある。

指導方法の工夫に関する質問

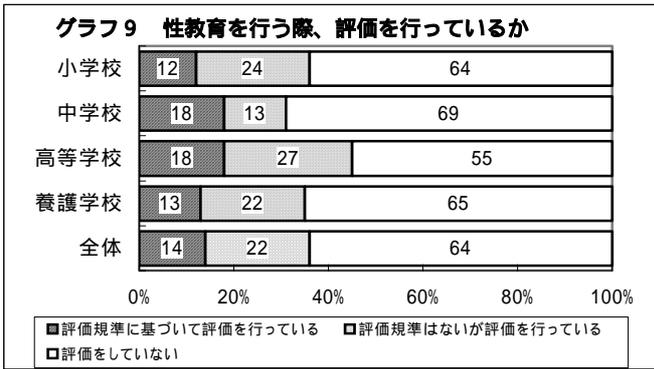


「指導方法を工夫している」と回答した割合は、全体で46%、小学校も46%、中学校で33%、高等学校で42%、盲・ろう・養護学校では81%であった。「指導形態の工夫」での回答と比較すると、割合は低かった。



指導方法の工夫では「調べ学習、課題別学習」が最も多かった。ただし、回答総数の10%に満たない人数であった。校種別で多かったものとしては、小学校では「調べ学習」「ロールプレイング」「掲示物等を活用した学習発表会」、中学校では「ブレインストーミング」「ロールプレイング」、高等学校では「ケーススタディ」「ピアカウンセリング」、盲・ろう・養護学校では、「ロールプレイング」「ディベート」が挙げられている。

評価に関する質問



評価の実施率は、全体で40%に満たず、評価基準に基づいて評価を行っているのは、わずか14%であった。性教育における評価は十分行われていないことが分かった。

(7) 調査仮説の検証

児童・生徒の知識についての質問において、「十分身に付けている」もしくは「身に付けている」に回答していれば「身に付けている」とし、「あまり身に付けていない」もしくは「身に付けていない」と回答していれば「身に付けていない」とする。

児童・生徒の意志決定能力についての質問において「よくできる」もしくは「できる」に回答していれば「できる」とし、「あまりできない」もしくは「できない」に回答していれば「できない」とする。

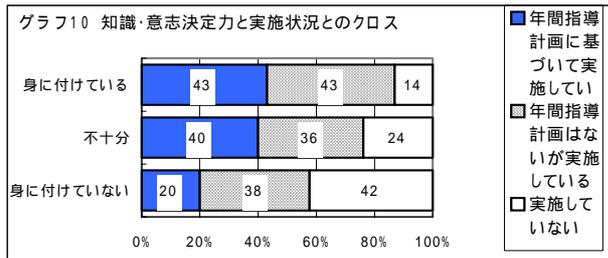
表1

知識	意志決定	分類
身に付けている	できる	身に付けている群
身に付けている	できない	不十分群
身に付けていない	できる	不十分群
身に付けていない	できない	身に付けていない群

表1のように、「身に付けている群」「不十分群」「身に付けていない群」に分けて、<sup>2</sup>検定を行った。(無回答は除外)

### 知識・意志決定能力と実施状況

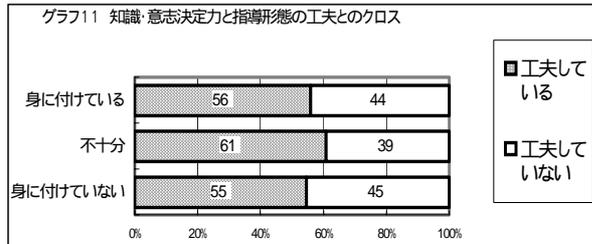
p<0.01 有意差あり



性教育を行うことによって、児童・生徒に知識・意志決定能力が身に付くと考えていることが分かった。計画的な性教育の実施が必要であると考えられる。

### 知識・意志決定能力と指導形態の工夫

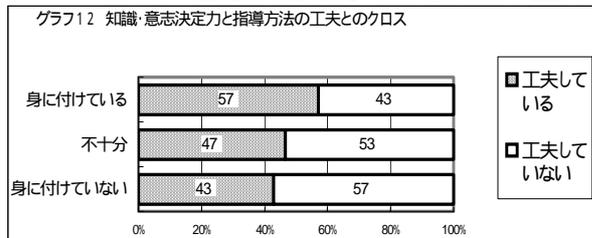
p<0.1 有意差なし



指導者は、自身が行っている指導形態の工夫は、児童・生徒の知識の定着や意志決定能力に関連はないと考えていることが分かった。男女別・学年別といった従来の指導形態では、児童・生徒に知識・意志決定能力が身に付きにくいと考えている。

### 知識・意志決定能力と指導方法の工夫

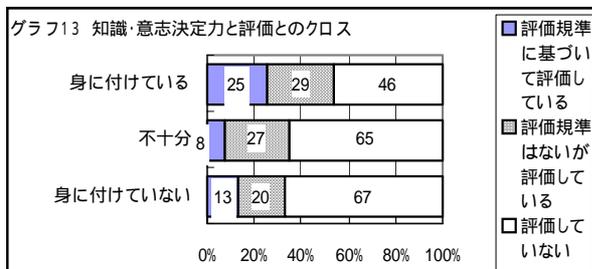
p<0.1 有意差あり



指導者は、自身が行っている指導方法の工夫は、児童・生徒の知識及び意志決定能力に有効ではないか(p<0.1)と考えていることが分かった。指導方法について、さらに工夫を重ねていけば、より充実した指導を展開できるのではないかと考えられる。

### 知識・意志決定能力と評価の工夫

p<0.01 有意差あり



指導者は、性教育における評価の実施は児童・生徒の知識の定着や意志決定能力の定着に有効であると考えていることが分かった。性教育における評価の重要性を再確認し、評価について十分検討して指導を進めていく必要があると考えられる。

## (8) 調査結果のまとめ

調査の結果、系統的かつ計画的な性教育が浸透しているとは言えず、性に関わる様々な課題に対応できる指導が十分には行われていない実態が明らかになった。80%の教員が、児童・生徒に、性に関する知識や意志決定能力が身に付いていないと考えているにもかかわらず、計画的に性教育を実施している教員が30%に満たない理由を今後探っていく必要がある。

性に関する知識・意志決定能力を身に付けさせるには、年間指導計画に基づいて性教育を実施すること、指導方法を工夫すること、評価を行うことが有効であると指導者は考えていることが分かった。そこで、性教育の充実のためには、まず、指導者の性教育に対する共通理解を図り、学校全体で計画的に実施していくことが必要である。さらに、実施にあたっては、その指導方法や指導形態について従来行われてきたものを見直しつつ、工夫を重ねていくとともに、性教育におけるよりよい評価の在り方を十分検討して適切な評価を行っていくことが重要である。

## 4 実証授業

特別活動（学級活動）

### (1) 小学校

児童・生徒が性被害に巻き込まれる危険が増している昨今、小学生の発達段階で研究主題をとらえたとき、性被害から身を守ることが何より重要であると考えた。そこで、児童自ら考え、判断・行動できる力をはぐくむことをねらいとした授業「社会の中の性～あなたなら、どうする？～」を実践した。

発達段階に応じた指導方法として、まず、学習課題を理解しやすいように、中学年ではパネルシアター、高学年ではロールプレイングを取り入れた。さらに、児童一人一人が自分の問題として考え、表現できるように、ディベート・フォーラムやリレー対談を行った。

ディベート・フォーラムとは、自分の意志で肯定側・否定側を決定し、代表者以外の児童も「フロアー」として質問したり、意見を述べる機会が与えられる全員参加型の方法である。リレー対談とは、小グループで人の意見を聞いたり、自分の考えを発表することで、全員が話し合いに参加できる方法である。このような方法を用いることで、児童の意志決定能力や行動選択能力を養い、性被害から自らを守る力を育てたいと考えた。

指導形態としては、グループ活動を取り入れたり、チーム・ティーチングの在り方を工夫したり、GT（ゲストティーチャー）を登場させたりした。

評価については、学習中のワークシートを工夫し、1時間の学習を自己評価しやすいように振り返りカードを使用した。

### 中学年

題材名 第4学年 学級活動「社会の中の性～あなたなら、どうする？～」  
題材について

#### ア 設定の理由

中学年においては、低学年よりも自らの認識や行動が重要になってくる。そこで児童自ら考え、判断する場面を取り入れることで、危険から身を守る能力を育てたいと考え本題材を設定した。

#### イ ねらい

- (ア) 適切な判断は自分で言い、自分の身は自分で守ることの大切さを認識する。
- (イ) 外出時の約束を確認するとともに、自分で判断できないときは、保護者・担任・養護教諭に相談することの大切さを再確認する。

#### ウ 指導の工夫

指導方法：ディベート・フォーラムを行い、自らの意志決定の根拠を明確に主張することで問題の本質に迫れるようにしたり、パネルシアターを用いることで状況を把握し、主体的に課題意識をもてるようにする。

指導形態：チーム・ティーチングを工夫し、児童の実態を把握している担任と、専門的知識を有する養護教諭のよさを生かし、役割分担する。

本時の評価

ワークシートや評価記録表を活用して、評価に生かす。

観 点	評 価 規 準	評価方法
関心・意欲・態度	意 - 安全な生活を送ろうとしている。 意 - 積極的にディベート・フォーラムに参加しようとしている。	観察 ワークシート
思 考・判 断	思 - 自分のことは自分で考え、行動することの大切さに気付くことができる。 思 - 自分の考えを主張したり、この問題を真剣に考えることができる。	観察 ワークシート
知 識・理 解	知 - 性被害からの「危険から身を守る能力」や「危機回避能力」の大切さに気付く。	ワークシート

本時の活動(T 1:4年学級担任 T 2:養護教諭) 意:関心・意欲・態度 思:思考・判断 知:知識・理解

	活 動 内 容	指導上の留意点	T T支援内容	評価
導 入 7 分	1 本時のテーマを知る 「あなたならどうする？」 2 パネルシアターを見る	T 1 T 2:本時の場面設定を パネルシアターで 伝える	T 1 パネルを動かす T 2 場面設定を話す	思 -
	<p>あなたは、4年生のAちゃんです。(略) 夏休みのある日、習い事が終わって、Yちゃんは家に帰る途中です。帰りの曲がり角で、おなじ学級で仲よしグループのMさんとKさんに会いました。Mさんは「これから、となり町のお祭りに行くところ」(略) Kさんは「これから、いっしょに行こう」とYちゃんを誘ってくれました。でも、Yちゃんが迷っていると、Mさんから「私のお母さんがもう先に行って待っているから、心配いらないよ」「ねえ、3人で一緒に行こうよ」と誘われました。</p> 			
展 開 23 分	3 自分の立場とその理由を考える ・ディベートフォーラムのルールを再確認する	T 2:論題と場面設定を確認する ・行く、行かないに分かれて席を決めさせ、代表児童を決める	T 1 ワークシートを配布する T 1 T 2 机間指導	思 - 意 -
	4 ディベートフォーラムに参加する 「ついて行く」派 ・気を付ければいい ・行った方が楽しい 「行かない」派 ・危ない目にあうかも ・最近では事件が起きている	・途中で席を移動してもよい ・フロアからも発言させる ・作戦タイムを入れる(3分)	T 2:レフェリーを務める  T 1:意見が活発に出るように支援する	思 -  意 -
ま と め 15 分	5 危険予知、自己判断、自己決定、自己責任の大切さに気付く ・外出時の約束を確認する ・ワークシートに記入する	T 1:状況に応じた判断は自分で行い、自分の身は自分で守ることを知らせる T 2:性被害を説明する	T 1 短冊からまとめる T 2 本時の学びをまとめる T 1 シート回収	思 -  知 -

## 授業より

パネルシアターで場面設定を把握すると、児童の「友達について、お祭りに行く」と判断したグループは「保護者がいるから大丈夫」「電話をすればよい」と考え、「断って、お祭りに行かない」派は「家族が心配する」「迷子や誘拐の危険性がある」と理由を自分なりに考えていた。ディベート・フォーラムでは、自分の意見を友達に伝えたり反対意見を聞いたりすることで、双方の意味を考えることができた。

また、自分の体を自分で守るためには、「出かける時は家族に連絡し、自分も気を付けたい」「先のことを考えて判断する」「危ない所には行かない」等、外出時の約束を守るだけでなく、危機回避能力が必要であること、自分自身の意志決定能力や行動選択能力が重要になることに気付いた。

## 実証授業の成果と課題

### ア 成果

- (ア) 小学校4年生では、家の人に告げてから出かけるのも「自分の身を守る」ための判断ととらえ、外出時の約束の確認行動は行動選択能力の要素となった。
- (イ) パネルシアターは状況を理解させるために効果的であった。また、児童の興味・関心を高め、授業の展開にも有効であった。
- (ウ) ディベート・フォーラムは児童が考えを出し合う学習方法として有効であり、新しい指導法の提案となった。
- (エ) チーム・ティーチングにより個別の支援ができ、一人一人の児童が自分の問題として受け止め、しっかりと考えることができた。

### イ 課題

- (ア) 「危険予知」や「自己責任」の重要性をしっかりと押さえ、自分では判断できないときの確認が必要である。
- (イ) パネルシアターの場面設定では、「そのままついて行く」派が3名と少数で議論が深まらなかった。ディベート・フォーラムで主張が偏らないよう工夫する必要がある。
- (ウ) 内容が多く、時間の確保が難しかった。指導計画の工夫が必要である。
- (エ) 一人一人を授業中に評価するためにはさらに評価方法を工夫する必要がある。

## 高学年

題材名 第6学年 学級活動「社会の中の性～あなたなら、どうする?～」

### 題材について

#### ア 設定の理由

高学年においては、中学年での知識を基に児童自ら考え、判断・行動することに加え、よりよく問題を解決する資質や能力といった「生きる力」をはぐくむことをねらいとして本単元を設定した。

#### イ ねらい

- (ア) ロールプレイングを通し、グループで考えた「見知らぬ人から話し掛けられたときの対処の仕方」の課題を明確にし、実際の場合に役立つ知識を身に付ける。

(イ) 自分で考えている通りには行動できないことを実感し、常に適切な判断をしながら行動することが大切なことを知る。

(ウ) 適切な対処法を実践するためには日頃の練習が大切なことを知り、練習しようとする態度を養う。

#### ウ 指導の工夫

指導方法：リレー対談を行い、男女それぞれの意見を交換できるようにし、全員が意見を発表し、一人一人の意見を大切に聞くことができるようにする。

：ロールプレイングを行い、自分たちの意見が実際に正しい対処の仕方なのかどうかを疑似体験できるようにする。

指導形態：チームティーチングを工夫し、6年学級担任・養護教諭との複数の視点を生かし、各班の話合い活動の支援や学習内容をより充実させる。

：ゲストティーチャーを招くことにより、実際の状況に近いものとする。

#### 本時の評価

学習カードやテーブルシートに貼っている付箋、ロールプレイングやチェックカードを活用して評価に生かす。

観 点	評 価 規 準	評価方法
関心・意欲・態度	意 - リレー対談に意欲的に参加し、自分の意見を積極的に発表しようとしている。 意 - ロールプレイングに積極的に参加している。 意 - 性被害の防止に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとする。	テーブルシートの付箋 観察 チェックカード
思 考 ・ 判 断	思 - 見知らぬ人から話しかけられたときの対処の仕方を考える。 思 - 見知らぬ人と接する場合、危険な状況にならないような行動をしっかりとろうとする。	観察・テーブルシートの付箋 ロールプレイング チェックカード
知 識 ・ 理 解	知 - 行動する前によく考え判断の仕方が大切なことを理解する。 知 - 常に自分の身を守ろうとする意識があれば、見知らぬ人を思いやり、優しい気持ちで生活をしていくことができると理解する。	ワークシート 観察

本時の活動 ( T 1 : 6年学級担任 T 2 : 養護教諭 ) 意 : 関心・意欲・態度 思 : 思考・判断 知 : 知識・理解

	活 動 内 容	指 導 上 の 留 意 点	T T 支 援 内 容	評 価
導 入 10 分	1 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">社会の中の性 ~あなたなら、どうする?~</div>		T1情報提示	
	危険な場面での対処方法について確認する。 今日の活動のめあてをつかむ。	T2今までの学習を振り返る	T2対処法の確認 ・逃げる ・大声で叫ぶ ・助けを呼ぶ ・お店・子ども	知 -
	2 問題を知る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">さあ、このあと、あなたは どうします?</div>			思 -

		<p>T1各グループから出された{あなたならどうするカード}を異なるグループに配る。</p> <p>声かけの内容は、いろいろあることを伝える。</p> <p>見知らぬ人が、すべて悪い人ではないことも伝えておく。</p>	T10番に駆け込むなど説明	
展開	<p>3 各グループに分かれ、話し合いを行う。</p> <p style="text-align: center;"><b>さあ、みんなで考えよう！</b></p>		T1、T2各班の話し合い活動を支援する。	意 -
13分	<p>警戒しつつ、相手の様子を伺うために方策を考える。</p> <p>自分に危険が迫っているのか、そうでないのか分からない状況での対処の仕方を考える。</p>	<p>リレー対談で話し合わせる。</p> <p>付箋紙を使い、まとめさせていく。</p> <p>意見がまとまった場合には、全員で話し合ってもよい。</p>	T1、T2各班の代表者を決めるときにの援助をする。	思 -
展開	<p>4 話し合いの結果を基にロールプレイングをする。</p> <p>各グループから代表者を出し、G Tとロールプレイングをする。</p>	<b>実際に、やってみよう！</b>	T1司会、計時 T2次の班の代表者の準備をする。	意 -
12分		<p>G Tは、あらかじめ役割分担を明確にしてロールプレイングをする。</p> <p>G Tと児童はロールプレイング後、役割解除を行う。</p>	各班の課題を板書していく。	思 -
まとめ	<p>5 ロールプレイングを通してのまとめをする。</p> <p>思っている通りに行動することは難しいことを知る。</p>	<p>T1ロールプレイングの感想を聞き、練習の大切さを伝える。</p> <p>理解していても、思ったとおりの行動はなかなかできない。</p> <p>行動化につながるには、練習しておくことが大切である。</p> <p>万が一の場合は、家族が先生にしっかりと伝えることも大切。</p> <p>T2 危険の有無を判断するための視点を説明する。</p>	T1課題の板書 T2正しい対処の仕方の説明。	知 -
10分	<p>6 まとめのワークシートを記入する。</p>	<p>すべての人を疑うのではなく、困っている人を助けることも大切。</p>	T1記入指示と中間指導 T2シート回収、点検	知 -

高学年の授業より（授業を通して）

問題を提示し、リレー対談を始めると「近寄りすぎたら、いけないよね。」「本当に困っている人かもしれないから、ここまでは優しい対応にしよう。」などの声が聞こえてき

た。提示された一つの問題からいくつもの対応の仕方がテーブルシートに貼られていった。ゲストティーチャーを迎えてのロールプレイングでは、相手の言葉や状況に合わせてグループで考えた対応をしようと懸命に取り組む姿があった。なかなか考えていた通りにできないという経験を通して、日頃からの心がけの大切さを知り、また具体的に何に気を付ければよいのかを理解していた。いたずらに大人を怖がるのではなく「しっかりと気を付けていれば、人に優しくすることができる。」と感想を寄せる等、今後の自分の行動に生かそうとする意欲的な姿が見られた。

#### 実証授業の成果と課題

##### ア 成果

- (ア) 身近なところにも危険が存在することを、児童一人一人が気付くことができた。
- (イ) 小グループで話し合うことにより、それぞれの意見交換が可能になり、活発な話し合い活動につながった。
- (ウ) ロールプレイングを通して、考えていた通りにはなかなか行動できないことを87%の児童が実感し、考えていた通りに行動した児童が13%いた。
- (エ) ゲストティーチャーを招くことにより、適度な緊張感をもちながらロールプレイングに取り組むことができた。
- (オ) 90%の児童が普段からよく考えて行動することの大切さを感じ、残りの10%の児童は、普段どおりの行動が正しかったと感じていた。
- (カ) 授業後の児童の感想では、42%の児童が用心の大切さを訴え、残りの58%の児童が他人を親切にする心を失ってはいけないと訴えていた。

##### イ 課題

- (ア) 見知らぬ人から声をかけられた時に、相手の意図を推察しながらの行動を求める適切な発達段階をさらに明らかにしていく必要がある。
- (イ) ロールプレイングにおいて、警戒心が強く出すぎてしまう傾向がある。
- (ウ) 状況に応じた適切な行動を習慣化していくための手だてをさらに明らかにしていく必要がある。

## (2) 中学校

中学生は、思春期の体の変化の個人差が非常に大きい。また、性に対する興味・関心の個人差や性に関する知識の個人差も大きい。興味・関心を強くもつ生徒は、メディアや友達からの情報を知識とし、興味・関心を充足させていることが多く見られる。生徒の実態から「自ら考える」という視点は乏しいように思われる。

研究主題としてあげた「生きる力」のうち、性教育においては、特に“自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力”及び“自ら律しつつ他と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性”、具体的には、自他を尊重する視点の基に、情報を選択し、自ら考える力を身に付けることが必要と考える。知識・理解に留まらず、体験的な学習などの指導方法の工夫により、実践力をはぐくむことが、現代の社会情勢の中で強く求められている。

### 特別活動（学級活動）

題材名 学級活動 「社会の中の性～性情報と互いの尊重」

題材について

#### ア 設定の理由

自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力をもつことは、メディアリテラシーをもつことにも通じる。メディアの中に何気なく存在する偏見や享乐的な情報などを受け止めてきた生徒たちに、自らを振り返り、自ら律しつつ他と協調し、他人を思いやる心をもつことの大切さに気付くことを豊かな人間性をはぐくむ手だての一つと考えた。

本部会が実施した「性教育についての実態及び意識調査」の結果を見ても、性についての知識を身に付け、自ら考え、判断し、行動することができる生徒の割合が少数であるととらえることができる。

情報や風潮に流されることなく、自分の目で判断する力を育てていくために、性情報の特徴や問題点を理解することが求められる。さらに、自ら考え、行動することの基盤として、お互いを尊重する気持ちを身に付けさせることが重要であると考え、本題材を設定した。

#### イ ねらい

(ア) 性情報の特徴と問題点を理解する。

(イ) 性情報の適切な選択によって正しい知識が身に付き、自ら意志決定するための基盤づくりに役立つことに気付く。

(ウ) 性情報の選択も、自らの意志決定・行動選択も、互いを尊重する気持ちが必要となることを理解する。

#### ウ 指導の工夫

指導方法：ブレインストーミングにより、自らの意見を伝えるとともに、互いの意見を聞き合う。

：自分たちの現状について自由記述させ、これを発表することにより、相

手の気持ちを知る機会とする。

指導形態：グループワーク...少人数のグループで活動することにより、全員が自分で考え、表現できる機会を確保する。

：チームティーチング

担任、養護教諭と複数の視点がある。

チームティーチングであれば、意見の集約を要するブレインストーミングなどのスムーズな進行が期待できる。

配慮を要する生徒への個別対応が可能になる。

### 本時の評価

観 点	評 価 基 準	評価方法
関心・意欲・態度	意-1 性情報の正しい選択について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	個人シート、観察  観察
	意-2 積極的にブレインストーミングに参加している。	
思考・判断	思-1 性情報を客観的にとらえ、問題点に目を向け、自ら考え、判断することの大切さに気付くことができる。	ワークシート  振り返ってみよう ～記入用紙、 ワークシート
	思-2 自らを振り返り、互いに思いやりの心をもって接していくことの大切さを認識する。	
知識・理解	知-1 性情報に対して批判的にとらえる視点があることに気付くことができる。	ワークシート  ワークシート
	知-2 意見を集約し、問題点を読み取ることができる。	

本時の活動（T1：担任 T2：養護教諭） 意：関心・意欲・態度 思：思考・判断 知：知識・理解

	活 動 内 容	指導上の留意点	T T支援内容	評価
導入 5分	どんなところから、性情報を得ているかを班で出し合う	机は班の形にする	T2:指示 T1:机間指導	意-1
展 開	ブレインストーミング 雑誌記事を基に、ブレインストーミング用ワークシートを個々に記入する ・この記事の内容は本当でしょうか ・この記事を読んであなたは どう 思いますか	性情報を提示する	T2:性情報提示 T1:性情報、印刷物配布  T2:机間指導 T1:配慮を要する生徒の援助	意-2
	各班の中で意見を発表する  発表された意見を短冊に書く	短冊 雑誌Aに対して:緑 雑誌Bに対して:黄色 お互いの意見の違い	T1/T2:カードに書かれた意見をカテゴリー化しながら	

35 分	<p>黒板に貼ってある短冊から互いの意見を知る</p> <p>出た意見のまとめを聞き、互いを尊重する視点が欠けている性情報には、問題点が多いことを知る</p> <p>メディアリテラシー</p> <p>正しい情報を選ぶ力を養うために、互いを尊重する気持ちが必要であることを知る</p> <p>性情報を適切に選択することが必要であると気付く</p>	<p>や特徴などに注目させる</p> <p>この記事が互いを尊重しているものかどうか考えさせる</p>	<p>黒板に貼る</p> <p>T2: 尊重されないことでどんな思いがするのか知らせる</p> <p>T1: 理解が難しい生徒の支援</p>	<p>知-1 思-1</p>
ま と め 10 分	<p>自分たちの行動を振り返る</p> <p>身近な「互いを尊重していない言動」をシートに記入</p> <p>自らに目を向ける</p> <p>自分たちの身近にも、間違っ性情報や、互いを尊重し合わないことで不快な思いをするケースがあることを知る</p> <p>まとめのワークシートを記入する</p>	<p>ペンネーム記入 (他人の名前は記入しないこと)</p> <p>特定されるものについては配慮する</p> <p>ワークシートは記名の上回収</p>	<p>T1/T2: 机間指導</p> <p>T2: 発表</p> <p>T1: シート回収</p> <p>T1: 担任として、級友同士が互いを尊重し合うことでよりよい集団づくりができることを伝える</p> <p>T2: 記入指示</p>	<p>思-2</p> <p>知-1 知-2</p>



### 中学校の授業より

- ア ブレインストーミングについて、「ゲーム感覚で学べて楽しかった」という感想が聞かれ、体験的な指導方法の効果が得られた。
- イ 生徒が記入した「振り返ってみよう～記入用紙」「まとめのワークシート」をまとめたものを教材にして、各クラス「自他の尊重」について学級活動を行った。(1時間) その結果、互いを尊重する視点がさらに深まり、生徒の日常的な会話の中にも配慮が見られるようになった。
- ウ 「振り返ってみよう～記入用紙」から対人関係のトラブルを見取ることができ、適切な対処につながった。

## 実証授業の成果と課題

### ア 成果

- (ア) 性情報には、明らかに誤っていたり、偏っていたりするような内容があることを理解し、情報を選択する上で、自ら考え判断することの大切さに気付くことができた。また、最後に自分の生活に結び付けたことで、実践力育成の一助となった。
- (イ) 意志決定・行動選択において、互いを尊重する気持ちが基本として必要であることを確認できた。
- (ウ) 生徒にとって身近にある題材を教材として授業展開したことにより、生徒が興味をもって落ち着いて学習に取り組むことができた。班形態で机を並べていたが、まとめの時、体をしっかり養護教諭の方へ向け、ひきつけられてよく話を聞いている様子を観察することができた。また、ブレインストーミング中も活発な意見交換が行われていた。
- (エ) ブレインストーミングを行うことにより、生徒が自分の考えを相手に伝え、相手の多様な考えを聞くことができ、自分の考えを深め、他者を尊重し理解しようとする能力を高めた。
- (オ) ワークシートを活用することにより、生徒が自分の考えを整理し、意見をまとめることができた。また、評価の資料として有効であり、継続した評価に利用できた。
- (カ) 授業後、担任は、授業で使用したプリントを活用して学級活動を行ったり機会あるごとにその情報を生かした生徒指導を行ったりしている。また、保護者会の学級懇談で参考資料とし、保護者とかかわりを深める手段として活用した。このことにより、学習を発展させる形となる TT の指導方法の利点を確認することができた。
- (キ) 性の問題は極めて個人的な問題であり、生徒の心情として吐露しにくい部分でもある。プライバシーの問題も含めて、机間指導やワークシートの取扱いなどに慎重な配慮が必要であることが再確認できた。
- (ク) 帰国子女の生徒に対し、英語で翻訳した別のワークシートを用意するとともに、授業に集中できない生徒に対し、担任と情報交換・連携を密にする等個別の配慮・対応をすることにより、全員が学習に参加することができた。

### イ 課題

- (ア) 全体計画、年間計画をもって性教育を取扱ってはいるが、教育課程に明確に位置付けて実施していくことが必要である。
- (イ) 発達段階に応じた心身の発育や発達の特徴をとらえ、教材作成時に考慮・工夫する必要がある。また、視覚に訴えるなど、指導方法の工夫についても改善の余地がある。
- (ウ) ねらいを押さえ、一単元で取り上げる指導内容を絞り込む必要がある。

### (3) 高等学校

高校生の時期は心身の発育や発達の個人差がより大きく現れ、性機能の成熟に伴う心理的な変化も著しくなる。また、活動範囲が広がり交友関係に変化が出てくる時期でもある。

現代は性情報が氾濫し、性犯罪に巻き込まれる危険も多くなっている。また、性に関する観念やモラル、価値観が変化し多様化している状況にある。そのため高校生の直面する問題は多様化・複雑化してきている。このような状況に対応して、適切な意志決定や行動選択ができる力を身に付けることが求められる。高校生における適切な意志決定能力や行動選択能力とは、社会における自己の役割と責任を自覚し、異性を尊重する態度を身に付け行動できることである。しかし本部会の実施した「性教育についての実態および意識調査」の結果では、80%の教員が、生徒に性に関する知識や意志決定能力が身に付いていないと感じている。

このような実態を踏まえて研究主題に迫るとき、高等学校では、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を養うことを中心に授業研究に取り組むこととした。題材は、生徒の関心が高い性に関する情報への対処方法を取りあげた。指導方法・指導形態の工夫として、一人一人が学習に取り組むことができるようにケーススタディをグループワークで扱った。さらに他者との意見交換を行い、自らの意志決定に生かすためディスカッションを採用した。また、きめ細かなかわりを目的にチームティーチングを取り入れた。評価については、小中学校と同様、学習中のワークシートと自己評価シートを併用した。

#### 特別活動（ホームルーム）指導

題材名 性に関する情報と性行動

題材について

##### ア 題材設定の理由

中高生の25.6%が出会い系サイトにアクセスし、そのうちの45%の生徒が直接相手に会うといった体験をしている（平成13年上半期警察庁調査）。出会い系サイトにアクセスする理由としては「ひまだから」や「異性の友達がほしかったから」といった理由があげられており、出会いの場として気軽にアクセスしている姿が見え隠れする。近年の携帯電話の普及もあり、生徒にとって出会い系サイトは身近なものとなっている。一方、出会い系サイトにアクセスした生徒が巻き込まれる事件も起きている。被害者の年齢で一番多いのは、18歳未満の1273件（全体の84%）である（平成14年度警察庁検挙件数）。

生徒のうち何人かは出会い系サイトにアクセスし、直接本人と会うという経験もしている。ひまなときの遊び相手等に利用している例もある。保健室でも「メールの友人」の話聞くことがある。しかし、被害が公になることは少ないため、出会い系サイトによる被害を身近なものと考えられない生徒は、気軽にアクセスしている。また、未経験者も身近に犯罪に巻き込まれた等の話がないからか、出会い系サイトに対する恐怖感は薄い。そこで、多くの出会い系サイトは高校生にとって有害

なメディアになるという視点をもたせるため、本題材をとりあげた。

#### イ ねらい

- (ア) 匿名性に潜む危険を理解する。
- (イ) 出会い系サイトに対する自己の態度を決める（意志決定）。
- (ウ) 出会い系サイトにまつわる犯罪等に巻き込まれないための防衛策を考える。

#### ウ 指導の工夫

指導方法：生徒の理解の状況に応じて、イメージをふくらませるためブレインストーミングを取り入れた。

具体的にイメージできるようケーススタディを提示する。

それぞれが考えた意見の発表とともに、他者の意見を聞く場としてディスカッションを行う。

指導形態：少人数のグループワークによって、一人一人が学習に取り組むことができるようにする。

きめ細かな支援を目的にチームティーチングを取り入れる。

#### 本時の評価

評価の観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>意 - ・メールからの性情報を正しく選択しようとしている。</li> <li>意 - ・自分の意見を発表し、人の意見を聞くことができる。</li> <li>意 - ・積極的にグループワークに参加する。</li> </ul>	観察 短冊 ワークシート
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>思 - ・メールの文章から課題を見付けようとしている。</li> <li>思 - ・出会い系サイトにまつわる犯罪から身を守る方法を考えられる。</li> <li>思 - ・授業で得た情報等を基に、出会い系サイトに対する自分の態度を決めることができる。</li> </ul>	観察 プリント
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>知 - ・ケース（事例）の内容を理解している。</li> <li>知 - ・出会い系サイトは犯罪に巻き込まれる可能性があることが分かる。</li> </ul>	観察 短冊 ワークシート

#### 本時の活動

##### ケース内容

友達とふざけ半分で出会い系サイトにアクセスしていたAさん（17歳）は、合コン募集のメールを見付けメールのやり取りを始めました。相手の女の子たちは2人。年も同じです。携帯で撮影した写真付きでこんなメールが届きました。

Aさん、こんばんは。これから私たちは横浜に出かけるんだけど、Aさんも友達誘って来ない？一緒に遊ぼうよ。車は先輩が出してくれるから心配ないよ。  
写真送るから見て気に入ったら返事ちょうだい。  
それじゃーね。バイバイ。

行く：0人、行かない：14人（1クラス、在籍数18名、欠席4名）

##### 生徒の声

メールの写真では相手の人数が分からない。行くのがおっくう。かのじょがいるから。先輩とは危ない人たちかもしれない。しょっぱなから車は危ない。車ってというのがこわい。電車に乗って行くのは遠い。金ない。自分が知らないことばかりだから。こわい。知り合いじゃないのに会ってもつまらない。

このケースで実施した授業では、生徒全員が「行かない」との結論を出した。この結果を受け、ケース内容を変更する必要があると考えられた。新たなケース考案の際には、日頃の生徒のメール事情に近い内容を心がけた。

(T1: 学級担任、T2: 養護教諭) 意 関心・意欲・態度 思 思考・判断 知 知識・理解

	活動内容	指導上の留意点	T T 支援内容	評 価
導入 10分	ブレインストーミング 作業1 ・「出会い系サイト」からイメージする言葉を、各自で短冊に記入する(1つ1枚) ・班毎に記入枚数発表 ・記入した短冊を、プラスイメージとマイナスイメージに分けて発表	机は班の形 (1つの班は数人) ・話せる子と話せない子に配慮して班分けをする	T2:ブレインストーミング 進行 T1:短冊配布	意 -
展開 30分	ケーススタディ 作業2 ・ケースを見て、会いに行くか、行かないか、を決める ・その理由についても記入させる  グループワーク (意見交換をさせる) ・行く場合の留意点 ・行かない場合の断り方  班としての結論を出させる ・グループの結論ごとにまとめのワークシートを記入させる(行く《Go Go!》、行かない《No! Stop!》)  発表	ケースを黒板に掲示  プリントに記入 (質問等があるときは挙手をするように指導)  班の意見をプリントに記入	T1:ワークシート配布  T1:メールを読む T1,T2:机間指導  T1:進行。 T2:グループワークシート 配布、進行補助	意 - 思 - 思 - 知 -  意 - 意 - 思 - 知 -
まとめ 5分	出会い系サイトに関する自分の態度を明らかにする  自己評価カード記入	ワークシートは回収	T2:実際に被害にあった場合の対処法についてもふれる T1:保健室での相談についてふれる T2,T1:ワークシート回収	思 - 知 -

### ケース内容

2年間付き合っていた彼と別れたAさんは、2週間前から出会い系サイトで知り合った2歳年上のB君とメールの交換をしています。携帯電話で写真も交換済みです。

先日、B君からこんなメールが届きました。

Aさん、今度ごはん食べに行かない？

行く：14人、行かない：29人(3クラス、在籍数47名、欠席4名)

「『行く』と答えた」生徒の声

出会い系サイトも1つの出会いだし、ごはんぐらいならかまわない。  
ヒマだから。  
楽しそうだしおごってもらえるから。  
自分の地元近辺で遊ぶ(帰れなくなるとこまる)ともだちをつれていく。  
とりあえず、友達の輪を広げるために行く。  
会って話してみたいから。  
相手がもしも「危ない」人だったときのために仲間を集めておく。  
あやしい場所、人間に注意する。  
自分の欲望が満たされる。

「『行かない』と答えた」生徒の声

不安。  
こわい。だるい。  
危険そうだから。  
別れたあとすぐに、そんな気になんねえよ。  
きもち悪い。そんな軽くはない。  
行くのがめんどくさいから。  
たった2週間では相手の事が信用できないから。  
ごはんじゃ済まなそうだから。  
メールの写真が本物かどうか分からん。  
携帯電話の料金が安くなる。  
自分の時間が長くなる。  
忙しいから行けないと言う。  
断ってもなお、しつこく誘われたら、携帯電話の番号・アドレスを変える。

## 個人へのケーススタディ活用例

休憩時間や放課後を利用し、保健室に来た生徒に対してケーススタディを提示し、ケースに関する意見を集約した。ケーススタディに回答した生徒たちは、全員「会いに行かない」という結論を出した。その理由は、しっかりとした一人一人の意志がみえるものであった。保健室でのケーススタディの活用からも、生徒たちの実態をつかむことができたように思われる。また、生徒とのコミュニケーション手段として活用できたことも新しい発見であった。

## 高等学校の成果と課題

### 成果

- ア どのような情報に気を付けるのかに気付くことができた。
- イ 出会い系サイトの危険性について理解できた。
- ウ 出会い系サイトに対する態度を決めることができた。
- エ 危険を回避する能力が身に付いていることが確認できた。
- オ グループワークとワークシートから、生徒の意識・考え等を把握することができた。
- カ ワークシートの活用により生徒が見通しをもって学習に取り組めた。
- キ 自己評価カードを利用したことにより、生徒自身が自己を振り返る機会となった。
- ク ティームティーチング形式の授業に養護教諭が参加することにより、担任等との情報交換・連携が図りやすくなった。
- ケ 養護教諭が授業に参加することで、相談ニーズをもった生徒へ働きかけることができた。
- コ 自分の体験を振り返り、実生活に結び付けることで、課題をより身近にとらえさせることができた。
- サ ライフスキルの技法も個別指導に適用することができる。

### 課題

- ア グループワークを活性化させる工夫が必要だった。
- イ 生徒の発言を生かした授業展開にすればよかった。
- ウ 自己評価カードの生徒への返し方と積み上げ方の工夫が必要である。
- エ 学習内容の日常化を図るため、他教員との連携を密に行い、計画的・系統的に保健学習を実施していく必要がある。
- オ 問題解決能力はすぐに身に付くものではないため、継続的な指導が必要である。
- カ 集団指導・個別指導の指導形態の相互性を重視し、さらにより効果的な指導を行うための工夫が必要である。
- キ 同世代の共感性・共有性を活用した相談活動・形態の工夫が必要である。
- ク 他教職員、保護者、関係諸機関との連携の工夫が必要である。

#### (4) 養護学校（知的障害）

養護学校には、障害・疾病によって異なるが、小・中・高等学校の児童・生徒と同じように、心身の発育・発達が進むとともに、悩みや不安を抱える思春期の児童・生徒がいる。また、氾濫する様々な性情報から、性に関する簡単な知識をもっている生徒もいる。しかし、自分の意志を相手に伝えることや言葉ではっきり断わることが苦手な児童・生徒にとっては、犯罪に巻き込まれたり、性被害に遭遇したりする可能性が考えられる。

児童・生徒が主体的に学習するために、発達段階に応じたグループ編成や参加型の指導形態を取り、知識・理解を図った上でさらに実践力を高めるために、教師や生徒によるロールプレイングを取り入れた保健指導を行った。

題材名 高等部 第1学年（中軽度グループ） 「人とのかかわり方」

題材について

##### ア 題材設定の理由

本校高等部1年生は、目上の人に対して、不適切な行動や言葉遣いをしていたり、相手が困る行動をしてしまっていたりすることが多い。また、異性に興味・関心を持ち始め、その付き合い方に悩んでいる生徒もいる。そして世間では、同年代が性被害や暴力を受けたという事件が頻繁に起こっており、生徒もそのことを知っている。しかし、同様のことが自分たちにも起こる可能性があるという危機感はなく、自分から意識して気を付けて生活しているという危機回避能力を身に付けている生徒は少ない。また、そのような場面に遭遇したときに、適切な対処ができる生徒も同様に少ないと考える。

地域での社会生活をしていくうえで、人とうまくかかわっていく力、また、それを踏まえて、自分の現在の生活を振り返り、自ら考え、適切な行動をする実践力を身に付けさせたいというねらいから本単元を設定した。

##### イ ねらい

人（友達、目上、異性、知らない人）との望ましいかかわり方を学ぶ

##### ウ 指導の工夫

指導方法：生徒が言葉や文章だけの説明では、場面の状況などを理解することが難しいので、ロールプレイングを行った後で、ワークシートで再度、文章と言葉での説明を加えて、生徒に場面状況を印象付けてから自分ならどのように対処するか考えさせるようにする。

実際に他者とのかかわりで困ったときに適切に対処することができるかを確認するため、代表者による体験の時間を設定する。

指導形態：発達段階に応じたグループ編成をし、それぞれのグループに合った指導を行う。

ティーム・ティーチングにより、授業全体を進める教師と生徒の指導やロールプレイングをする教師とに役割分担し、生徒にきめ細かい指導が行き渡るようにした。

机は班の形にし、周囲の友達との相談など、かかわりをもつことができるようにする。

単元指導計画

時	学習内容	留意点
1時	「友達、目上の人とのかかわり方」 ・ロールプレイングを通して、自分の生活を振り返り、友達や、目上の人との適切なかかわり方を考える	友達感覚で目上の人とかわかることは、不適切であると気付くようにする。
2時	「異性とのかかわり方(あなたならどうする?)」 ・ロールプレイングを通して、自分の生活を振り返り、異性との適切なかかわり方を考える	異性とかわるときには、思いやりの心をもって接することが大切だと気付くようにする。
3時 本時	「知らない人とのかかわり方(あなたならどうする?)」 ・ロールプレイングを通して、自分の生活を振り返り、知らない人とのかかわり方を考える	日常生活には、気を付けなければいけない場面がたくさんあることに気付くようにする。

本時の評価

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	意 - 自分の意見を言ったり、書き示したりすることができる。 意 - 他の意見に賛同したり意見交換をしたりすることができる。 意 - 積極的にロールプレイングに参加する。	ワークシート
思考・判断	思 - 知らない人とのかかわりの中で、気を付けなければならない場面を判断することができる。 思 - 知らない人から受ける犯罪から身を守る方法を考えられる。 思 - 自分が考えた対処方法を、ロールプレイングで実践することができる。	観察 ワークシート
知識・理解	知 - ロールプレイングでの場面状況を理解している。 知 - 困ったときのいくつかの対処方法が分かる。	観察 ワークシート

本時の活動(T1～T5)

時	活動内容	指導上の留意点	TT支援内容	評価
導入 5分	前回の授業「異性とのかかわり方」を復習 本時は「知らない人とのつきあい方」について学習することを伝える。	机は班の形(4班) 1班6名 2班6名 3班6名 4班7名	T1: リーダー T2: 1班担当 T3: 2班担当 T4: 3班担当 T5: 4班担当	意 -
展開 35分	《ロールプレイング》 ロールプレイングの方法や留意事項について説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">知らないお兄さんやお姉さんに「カラオケに行こう」と声をかけられた (あなたならどうする?)</div> ワークシートに自分の考えを記入する。 生徒代表によるロールプレイング <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「お母さんが事故で病院に運ばれたから、一緒に車で病院に行こう」と言われた (あなたならどうする?)</div> ワークシートに自分の考えを記入する。 生徒代表によるロールプレイング	・ロールプレイングの後、ワークシートで再度、場面状況を確認しながら、考えを記入させる ・なかなか考えがまとまらない生徒については、教師が手助けを行う	T1: 状況説明  T2: 誘われ役 T3、T4: 誘い役  T2: 誘われ役 T3: 誘い役	意 -  思 -  知 -  思 -

	<p>ミニスカートを履いて電車に乗ったら、じろじろ見られてしまった (あなたならどうする?) ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>生徒代表によるロールプレイング</p> <p>派手な服装で男性とデートしていたら、恐喝にあった。 (あなたならどうする?) ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>生徒代表によるロールプレイング</p>		<p>T2：被害者役</p> <p>T2、T3：被害者役</p> <p>T5：ロールプレイング中、机間指導</p>	<p>思 -</p>
まとめ 10分	<p>本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌なことは、はっきり断る</li> <li>・嫌なことをされそうになったら声を出す</li> <li>・困ったことが起きたら、保護者や教員などにすぐに相談する</li> <li>・外出時の服装は注意する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2、T3、T4、T5はワークシートが記入できているか確認する</li> </ul>	<p>知 -</p>

#### 高等部1年生の授業より

- ア 3回の実証授業で、教員や生徒、人形を用いたロールプレイングを行ったことにより、生徒の授業への興味・関心、意欲の向上につながった。また、はじめにロールプレイングを見てから考えるという方法をとったので、生徒も3回目の授業では活動に見通しをもつことができ、考えや意見も多く出るようになった。
- イ 友達、目上の人、異性、知らない人とのかかわり方についてそれぞれ学習してきて、所々で友達や目上の人とのかかわり方に気を付けていたり、友達がとった行動を、おかしいと判断して注意をしたりする生徒が少しずつ見られるようになった。

#### 実証授業の成果

- ア ロールプレイングを数回行うことで、生徒は集中を継続させることができた。また、文章や言葉だけでは理解することが難しい生徒も、場面状況を理解し、普段の生活を振り返りながら自分で意志決定・行動選択し、対処方法を考えることができていた。
- イ ワークシート上では適切な考えを記入することができていたが、体験の場面では、考えていたことが何もできずに、誘い役の教師に押し切られてしまう生徒が多く、断ろうと考えていても、実践力が伴っていない実態を明らかにすることができた。
- ウ 代表生徒によるロールプレイングでは、教師側が、適切に対処できるかを確認しただけでなく、他の生徒にとっても、その対処方法が適切であるか判断する機会となった。

#### 今後の課題

実証授業では、友達とのかかわりはあったがロールプレイングの設定場面が多く、対処方法を考える時間、確認する時間が少なくなってしまった。今後も、生徒が意欲的に取り組むことができる授業内容の検討、指導形態・方法の工夫、視聴覚教材の研究・開発が必要である。また、生徒は、性に関する知識をもち、考えたり、発表したりすることはできるが、実際の場面での実践力は伴っていない。今後は、さらにもっている知識を生かし、問題を解決する力を高めていくことが課題であるとともに家庭との連携が必要である。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

健康教育部会は、研究主題「生きる力をはぐくむ性教育の展開と評価の工夫」を受け、昨年度までの校種別の分科会に加えて、小学校、中学校、高等学校及び盲・ろう・養護学校合同で3つの分科会を構成して研究を進めた。児童・生徒の発達段階の特性及び校種間の連携に視点を当てるとともに、性教育の指導方法・指導形態や評価方法の工夫・改善に取り組んだ。

主題設定・調査研究分科会では、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化している現状から、性に関する様々な課題に適切に対処できる児童・生徒の育成を目指して研究主題を設定した。

研究を進める上での概要や視点について考察するとともに、教諭・養護教諭を対象に意識調査を行った結果、「年間指導計画に基づいた性教育の実施や、指導方法・評価の工夫によって、児童・生徒は性に関する知識や意志決定能力が身に付く」と感じていることが明らかになった。

指導計画・評価分科会では、学習指導要領等を基に、健康教育における性教育の位置付けを明らかにした。調査結果を受けて評価の必要性を確認し、小・中・高等学校の発達段階に応じた性教育の目標を受け、観点別に評価規準を作成した。また、児童・生徒が自己の学習の状況を振り返り、学習課題を適切に評価するために自己評価を取り入れることとし、自己評価カードを工夫した。この自己評価カードを指導者が分析することで、児童・生徒の考えや理解の様子を把握し、次の指導に生かすことができた。

授業分科会では、性教育が学校の教育活動全体を通じて実施されることを目指し、各教科、道徳、特別活動との関連性を明確にした年間指導計画例を作成した。

また、児童・生徒の「生きる力」をはぐくむために、「性問題の多様化した社会環境への主体的な対応能力」の育成が不可欠であると考えた。小・中・高等学校の発達段階と指導の系統性を重視し、「性被害・性情報」を中心にした授業実践の研究を行った。

その際、小学校は「性被害からの危機回避能力」、中学校は「性情報への対処や自他を尊重する意志決定能力と行動選択能力」、高等学校は「自分の生き方や社会とのかかわり方についての適切な意志決定能力と行動選択能力」、盲・ろう・養護学校は「障害を克服し社会的に自立していく能力」の育成を目指した。

授業実践では、役割を明確にした機能的なTTの指導形態や、参加型・体験型のグループ学習を取り入れることにより、豊かな人間関係を築く力を育てるとともに、自己評価により実践力が身に付いたかを振り返り、正しい自己理解や日常生活における動機付けへとつながるよう工夫した。

### 2 今後の課題

児童・生徒の状況をみると、性情報の氾濫や性意識の多様化、性行動の早期化とそれに伴う性感染症の増加等、様々な課題が山積している。

自他の生命を尊重し、適切な意志決定と行動選択ができる児童・生徒の育成を目指して、学校と家庭、地域社会、関係機関が、それぞれの教育機能を十分に発揮し、ともに連携していくための具体的な方策について追究していきたいと考えている。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社